

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	教育褒賞費	部課名	教育委員会事務局教育総務課	課長名	入野 隆二
		担当者名	嶋林 ルミ子	内線	3312
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	教育褒賞費（01-03-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	58 年度	根拠	荒川区教育委員会褒賞要綱	
終期設定	有 無	年度	法令等	荒川区教育委員会褒賞施行細則	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	教育・文化に関する行事や大会において優秀な成績を収めたことにより、荒川区の名を高め、教育に大きな影響を与えた児童、生徒、学校教育、社会教育関係者等に対し、教育委員会が褒賞を行う。				
対象者等	区内に在住、在学若しくは在勤する者又は区内の団体で 全国レベルの行事又は大会において、受賞した場合。 関東又は東京都レベルの行事又は大会において概ね3位以内。 区レベルの行事又は大会において、大会記録更新、同一大会同一種目3年連続優勝・5年連続優勝・10年連続優勝（児童及び生徒の場合は2年）。 区立学校に在学する児童及び生徒が各団体が実施する事業等において、優秀な成績で表彰、賞状等を受けた場合（事業団、公社・公団その他の公益法人、日本新聞協会加盟新聞社、日本雑誌協会及び日本書籍出版加盟出版社） 英語検定・漢字検定・数学検定（文部科学省後援）を受験し、卓越して優秀な成績（上級学校程度）を収めた場合				
内容	（褒賞の方法） 候補者の推薦 教育委員会事務局各課及び荒川区立学校の長が、候補者推薦者を必要な書類を添えて委員会に提出する。 褒賞の決定 委員会は荒川区教育委員会褒賞審査会の意見を聴いて被褒賞者の決定をする。 <審査会> 会長 教育長 委員 事務局教育部長、課（室、館）長のうち必要な職員 褒賞の方法 被褒賞者に対して賞状又は記念品を贈呈する。原則として個人、団体とも1件につき各1枚又は1品とするが審査会が特に必要と認める場合はこの限りではない。 褒賞の時期 対象者の年度の実績が把握できる3月に実施をしている。				
経過	・平成8年度までは、刻印した楯のみ授与。・平成9年度は賞状と記念品（楯）を贈呈。・平成10年度以降は、簡素化を図り年1回（3月）・平成13年度から区レベルの行事又は大会について、対象を3年連続優勝以上の者から3年連続優勝・5年連続優勝・10年連続優勝を対象とし、10年連続時で最後とする。児童・生徒については、従前どおり。・平成14年度から審査会の構成の改正をする。（改正後）事務局次長、課（室、館）長のうち必要な職員。（改正前）教育委員会委員及び事務局次長の職にある者。・平成14年度から文化関係団体の対象者については、各関係行事のうち5%以内の規模の大会に受賞したのものを対象とする。平成22年4月1日事務局次長から事務局教育部長に変更する。				
必要性	褒賞することにより、教育・文化に関する行事や大会において受賞者の励みになる。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） <贈呈式>平成11年度から4区分に分け贈呈式を行う。 子ども文化（小中高） 子どもスポーツ（小中高） おとな文化 おとなスポーツ				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	413	413	437	514	591	577	691	
決算額（23年度は見込み）	271	360	331	426	565	537	691	
人件費等			854	1,694	1,629	1,744		
減価償却費						581		
【事務分担量】（%）			10	20	20	20		
合計（+ +）	271	360	1,185	2,120	2,194	2,281	691	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	271	360	1,185	2,120	2,194	2,281	691	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	子ども文化（小中高）	42	69	62	102	110	115	115
	子どもスポーツ（小中高）	31	42	38	46	54	59	60
	おとな文化	8	5	3	7	10	12	12
	おとなスポーツ	19	21	20	23	15	23	23
被褒賞者数 合計	100	137	123	178	189	209	210	

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
			金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）
一般需用費	消耗品（記念品等）		479	消耗品（記念品等）	467	消耗品（記念品等）	577
	・楯	126		・楯	152	・楯	169
	・メダル	240		・メダル	190	・メダル	269
	・筒・手提げ袋	55		・筒・手提げ袋等	67	・筒・手提げ袋	76
	・賞状印刷	58		・賞状印刷	58	・賞状印刷	63
役務費	筆耕料（部分筆耕）		68	筆耕料（部分筆耕）	70	筆耕料（部分筆耕）	86
	使用料及び賃借料		18	会場使用料	0	会場使用料	28

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	受賞率（％）	0.80	0.90	0.91	0.80	0.80	受賞者数 ÷ 小中高の人数 (2月1日現在) (個人)
	受賞数	10	13	27	10	10	小中高団体数

（問題点・課題 指標分析）	<p>年々受賞者が増加し、5年前と比較すると2倍の水準となっている。 一方で、対象の拡大を求める声もあり、改めて本事業の目的等を踏まえ、他区制度と比較検討しながら、対象・基準・授与する物・式典の運営等について、そのあり方を見直す必要がある。</p>
他区の実 施状況	<p>（実施 18 区 未実施 4 区） 未実施区（中央区、文京区、大田区、葛飾区）</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	<p>児童・生徒及び区民の文化活動・スポーツ活動等を表彰する場として継続して実施する。</p>

状況（要旨）	
--------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	青少年委員事務費	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	市山正昭、高橋温子	内線	3351
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	青少年委員事務費(01-05-01)				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	33年度	根拠	荒川区青少年委員の設置に関する規則
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	地域住民の中から委員を選出し、行政と区民が一緒になって青少年の健全育成活動をすすめていく。具体的には、次の項目を大きな柱としている。 地域の子ども会・青少年団体が行う事業等への協力 教育委員会の青少年教育事業についての協力や実施 青少年教育事業の独自実施 行政、学校、PTA、地域の連携促進 小学校校庭の利用促進 その他				
対象者等	地域の子どもたち 地域の青少年関係団体(荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会、青少年対策地区委員会等) 小・中学校PTA				
内容	<p>【委員数】現員40名</p> <p>【報酬】月額8,250円</p> <p>【身分】地方公務員法に定める特別職（非常勤職員）</p> <p>【委嘱】青少年の余暇指導及び青少年団体の育成に直接携わり、かつ、相当な実績をあげつつある者に委嘱する。</p> <p>【任期】2年間（6期まで再任可）</p> <p>【対象年齢】委嘱時に満60歳未満の者</p> <p>【対象者】区内在住・在勤者          &lt;荒川区青少年委員連絡会&gt;・・・委員の自主組織（会長、副会長2名、会計2名、会計監査3名）</p> <p>【専門部会】総務部会、調査研修部会、広報部会</p> <p>【実践部会】少年団体育成部会、青年団体育成部会、校庭及び施設利用部会</p> <p>【地域部会】南千住、荒川、町屋、尾久、日暮里の各ブロック ... 青少年対策地区委員会事業への協力等</p>				
経過	S28 東京都青少年委員制度設置（総数265名：各区市町村から約5名選出、1地域500名で1名） S30 各小学校区から1名を推薦・委嘱（総数500名余、任期2年） S33 東京都荒川区青少年委員の設置に関する規則制定 S39 地方自治法一部改正により、事務が各区市町村に移管				
必要性	青少年の余暇指導や地域・学校との連携等、青少年教育の振興に果たす役割は大きい。				
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	5,314	5,641	5,475	5,720	5,284	5,766	5,526
	決算額（23年度は見込み）	4,963	5,322	5,232	5,386	4,806	5,006	5,526
	人件費等	8,016	8,113	8,662	8,338	7,045	7,988	
	減価償却費						2,760	
	【事務分担量】（%）	93	95	205	102	90	95	
	合計（+ +）	12,979	13,435	13,894	13,724	11,851	15,754	5,526
	国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	12,979	13,435	13,894	13,724	11,851	15,754	5,526
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	小学校対抗ピロポロ大会(チーム数)	6	10	8	-	-	-	-
	青少年委員連絡会の実施事業数	13	13	17	18	19	16	19
	青少年委員連絡会の応援事業数	31	31	34	36	32	34	32

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	報酬	委員報酬	3,886	委員報酬	3,960	委員報酬	3,960
	報償費	研修会講師謝礼	18	研修会講師謝礼	0	研修会講師謝礼	62
	旅費	宿泊研修会等旅費	208	宿泊研修会等旅費	177	宿泊研修会等旅費	330
	需用費	賄・消耗品・印刷等	297	賄・消耗品・印刷等	476	賄・消耗品・印刷等	500
	役務費	委員保険料	64	委員保険料	64	委員保険料等	105
	使用料	宿泊研修バス借上等	204	宿泊研修バス借上等	201	宿泊研修バス借上等	431
	負担金	都連合会分担金等	129	都連合会分担金等	129	都連合会分担金等	138

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	青少年委員連絡会定例会への出席率（％）	83.2	75.6	74.3	80.0	85.0	出席者数 / （定例会数*40名）
	参加（関連）事業総数（事業）	54	51	50	51	50	主催及び応援事業数
	部会等開催回数（回）	85	85	49	60	60	三役会・役員会・会計監査・各部会の総数

（問題点・課題）	<p>幅広い人材の活用と、若年層委員の任用の検討 青少年の現状を踏まえた、事業のあり方の検討 連絡会組織体制</p>
他区の実況	<p>（実施 19 区 未実施 3 区） 平成22年度現在の委員数 千代田24名、中央24名、港24名、文京31名、台東37名、墨田31名、江東45名、品川32名、目黒36名、大田59名、*世田谷64名、渋谷33名、杉並41名、北64名、板橋56名、練馬63名、*足立109名、葛飾73名、江戸川60名 区名の前の「*」は、東京都青少年委員会連合会（都連）に未加入を示す。</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	幅広い人材の活用のため、青少年対象以外の社会貢献活動等を行っているを選任対象とする。	出席率の向上と、より幅広い活動が可能となる。
	現在の事業について必要性の再確認を行い、他区の青少年委員との交流や活動状況を参考に事業について検討する。	現状にあった事業を推進でき、他区の青少年委員との連携が図れる。
	実践部会、専門部会、ブロック制の組織体制のあり方と部会等の開催回数について検討する。	効率的な部会等の運営や組織体制の改善により、より充実した活動ができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	青少年の健全育成のために、寄与している。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	優良青少年団体・個人表彰	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	横山 寛	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	優良青少年団体、個人表彰（01-06-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	46 年度	根拠	優良青少年団体・個人表彰実施要領	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	日常活動が特に優れている青少年団体及び団体活動に貢献してきた個人を表彰し、広くこれを紹介することにより、青少年団体の健全育成と発展に寄与する。				
対象者等	1. 日常活動が特に優れている青少年団体 2. 団体活動に貢献してきた個人				
内容	<p>&lt;実施方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会の代表に表彰候補者の推薦を依頼</li> <li>青少年委員連絡会の役員及び青少年団体育成部長により組織する審査会に諮問</li> <li>審査会の答申を得て教育長が決定し教育委員会が表彰する</li> </ol> <p>&lt;審査委員会&gt;</p> 青少年委員連絡会から8名（会長、副会長3名、会計2名、青年団体育成部長、少年団体育成部長）				
経過	昭和40年 長谷川賞（初代 教育委員会教育委員・長谷川伊三郎氏が私財を投じて設置）が前身 昭和46年 教育委員会表彰となる				
必要性	青少年団体とその団体活動に貢献してきた個人への表彰は、それまでの活動を賞賛するばかりか、その後の活動にも多めに励みになっている。低迷する青少年団体の活動を元気づける意味でも、この表彰の意義は大きい。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	33	31	25	25	25	34	34
	決算額（23年度は見込み）	23	29	16	17	17	9	34
	人件費等	517	517	512	593	689	523	
	減価償却費						174	
	【事務分担量】（%）	6	6	6	7	6	6	
	合計（+ +）	540	546	528	610	706	706	34
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	540	546	528	610	706	706	34
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	受賞者数（個人・団体）	3	3	2	2	2	1	4

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	11(2)食糧費	審査会賄 1,100	1	審査会賄 1,100	1	審査会賄 1,200	2
	11(4)一般需用費	記念品 8,610	9	記念品 4,305	5	記念品 18,560	19
	12 役務費	表彰状筆耕 6,300	7	表彰状筆耕 3,150	3	表彰状筆耕 12,600	13

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	団体表彰	0	0	0	2	2	
	個人表彰	2	2	1	2	2	

（問題点・課題）	<p>ここ数年、青年団体そのものに表彰すべき候補者が少なくなっている。</p>
他区の実況	<p>（実施 0 区 未実施 22 区）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
<p>青年団体リーダー研修会で新たな人材を育成する。</p>	<p>青年団体リーダー研修会で育った新たな人材が核となり青年団体活動の活発化に期待する。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	<p>青少年の健全育成のために寄与している。</p>

議会議況（要旨）	<p> </p>
----------	----------

事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	青年団体リーダー研修会	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	横山 寛	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	青年団体リーダー研修会（01-06-02）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成 41 年度	根拠	無し		
終期設定	有 無 年度	法令等	無し		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	区内の青年リーダーが、宿泊を共にして、団体運営に必要な理論と実技を研修し、青年団体リーダーの資質の向上を図り、あわせて今後の団体活動の活性化を図る。				
対象者等	区内の青年団体のリーダー等				
内容	<平成23年度> 平成23年9月24・25日 山梨県北杜市（予定） <平成22年度> 平成22年7月31日・8月1日 群馬県前橋市 <平成21年度> 平成21年7月25・26日 静岡県静岡市 <平成20年度> 平成20年6月28・29日 福井県福井市 <平成19年度> 平成19年7月28・29日 福島県小野町 <平成18年度> 未実施 <平成17年度> 平成18年2月18・19日 群馬県草津町 計15名 冬期研修に中国人留学生3人を招き、異文化交流を図った。（予算未執行） <平成16年度> 未実施				
経過	平成11年度 長野県富士見高原 平成12年度 埼玉県荒川村 平成13年度 福島県福島市 平成14年度 新潟県吉川町 平成15年度 群馬県上野村				
必要性	これまで他自治体の青年団体との交流を兼ねながら研修会を実施してきたが、青年団体の活動が停滞する状況の中で、リーダー研修会の必要性は高い。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	38	34	34	822	440	479	448	
決算額（23年度は見込み）	0	0	9	706	229	222	448	
人件費等	517	172	512	1,355	1,303	1,657		
減価償却費						552		
【事務分担量】（%）	6	2	6	16	13	19		
合計（+ +）	517	172	521	2,061	1,532	2,431	448	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	517	172	521	2,061	1,532	2,431	448	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	交流した自治体	群馬県草津町	未実施	福島県小野町	福井県福井市	静岡県静岡市	群馬県前橋市	山梨県北杜市
	参加者数	15人		17人	16人	9人	13人	15人

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		8報償費	研修会講師謝礼	0	研修会講師謝礼	0	研修会講師謝礼
9(1)職員旅費	近接地外旅費	40	近接地外旅費	37	近接地外旅費	49	
11(2)食糧費	食糧費	0	食糧費	0	食糧費	7	
11(4)一般需用費	事務用消耗品	0	事務用消耗品	0	事務用消耗品	13	
14使用料及び賃借料	バス借上げ等	140	バス借上げ等	144	バス借上げ等	257	
19負担金交付金	参加費補助	49	参加費補助	41	参加費補助	96	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	参加者数（人）	16	9	13	15	15	

（問題点・課題分析）	青年団体会員の減少や役員たちの多忙などにより、宿泊を伴う研修の実施が困難になりつつある。
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
団体を構成している青年層が多忙なため参加者の確保が難しい状況である。リーダー研修参加者募集を広く周知し学生や様々な職種の青年の参加を図る。	新たな青年リーダーを発掘することにより青年団体の組織強化が図れる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	新たな青年リーダーを発掘し、青年団体の組織強化を図るため、継続して実施する。

況議（要旨）	
--------	--



# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	心身障がい者青年教室「さくら教室」	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤 泰祥
		担当者名	松本春佳	内線	3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	心身障がい者青年教室（01-07-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	41 年度	根拠	無し	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	区立中学校特別支援学級卒業生及び在住・在勤の心身障がい者に対し、継続的・計画的な講座を開設し、余暇活動の充実とともに、自主性・社会性・協調性を養う。				
対象者等	区立中学校特別支援学級卒業生及び在住・在勤の心身障がい者。				
内容	<p>1 年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) クラブ活動を通して、実生活に役立つ知識や技能の習得を図るとともに、教養を深め余暇活動の充実を図る。</li> <li>(2) 学級活動を通して、様々な活動の楽しさを味わい、健康を維持し、体力の増進を図り個性や特性を發揮する。</li> <li>(3) 話し合い活動やグループワークの活動を通して、自ら考え意見を述べ行動する力を養う。</li> <li>(4) 全活動を通してスタッフと受講生の交流を図る。</li> </ul> <p>上記の目標を達成し、活動の充実を図るため、外部団体等との連携を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、家族</li> <li>・手をつなぐ親の会</li> <li>・青少年委員</li> <li>・荒川区水泳連盟</li> <li>・障害者スポーツ指導員等</li> </ul> <p>2 会場 荒川区立第一中学校を中心として活動。</p> <p>3 開催回数 日曜日(4月～3月に実施) 午前9時15分～(年17回) 半日または1日</p> <p>4 事業内容 クラブ活動(パソコン・音楽・美術・調理・生花・ｽｰｯ)、学級活動、校外学習、水泳・室内ｸﾞｯｸﾞ合同レクリエーション大会、お楽しみ会、作品展</p>				
経過	<p>昭和41年度 職業実習科卒業生を対象に開設(年22回)</p> <p>昭和57年度 城北ブロック合同レクリエーション大会開始</p> <p>平成14年度 作品展会場、区役所1階ロビーより町屋文化センターに変更</p> <p>平成18年度 愛称名を「きょうようこうざ」から「さくら教室」に変更</p> <p>平成22年度 スポーツクラブを新設、6クラブ体制に。</p> <p>学級活動名称を毎年受講生の希望でつけるように変更(旧:全員ｽｰｯ)</p>				
必要性	生涯学習の機会が少ない心身障がい者に対して、社会人として必要な自主性・協調性・社会性・教養を身につけることを支援する事業として必要である。さらに、継続的に講座を行うことで、受講生どうしの交流を支援する事業としても必要である。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	常勤、非常勤の他、民間講師やボランティアによって運営されている。				

		(単位:千円)						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	1,623	1,683	1,683	1,908	2,063	2,271	2,176
	決算額(23年度は見込み)	1,459	1,609	1,500	1,734	1,952	2,097	2,176
	人件費等	11,433	8,619	7,601	8,973	9,326	10,360	
	減価償却費						5,229	
	【事務分担量】(%)		205	100	89	170	180	
	合計(+ +)	12,892	10,228	9,101	10,707	11,278	17,686	2,176
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
	一般財源	12,892	10,228	9,101	10,707	11,278	17,686	2,176
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	延べ参加受講生数(人)	885	867	919	909	1,018	1,058	1,199
	受講生数(人)	66	64	65	63	71	75	83

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報償費	講師等謝礼	1,549	講師等謝礼	1,558	講師等謝礼
食糧費	合同レク大会来賓賄等	0	合同レク大会来賓賄等	0	合同レク大会来賓賄等	0	
一般需用費	消耗品	108	消耗品	107	消耗品	120	
役務費	申込ハガキ等	45	申込ハガキ等	53	申込ハガキ等	60	
使用料	作品展会場附帯設備、バス借上等	250	作品展会場附帯設備、バス借上等	238	作品展会場附帯設備、バス借上等	258	
備品購入費			備品購入費	141			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	受講生(人)	63	71	75	83	83	現状を維持する。
	平均参加率(%)	84	85	84	85	100	各回参加率合計 / 開催回数

問題点・課題 (指標分析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講生増加への対応 21年度より、一中、尾久八幡中に加え、王子・墨田・足立特別支援学校や区内知的障がい者関連施設等幅広く周知したところ、受講生が大幅に増加した。22年度はスポーツクラブを新設し、クラブ活動の選択肢を増やしたが、今後も引き続きプログラムの整備が必要である。</li> <li>・ スタッフ不足・高齢化 受講生の増加に伴い、従事するスタッフが不足している。また、スタッフの高齢化が進んでおり、若い世代のスタッフの育成が急務である。</li> </ul>
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	クラブ活動や行事についてアンケートを実施し、受講生や保護者のニーズを図る。	幅広い年齢層や障がいのニーズに応じたプログラムを整備することができる。
	新たなスタッフを育成すべく、体験ボランティアの受け入れを進める。	従事するスタッフの増加により、活動プログラムの充実につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	在住在勤の心身障がい者の自主性・協調性を養うため、継続して実施する。

議会議事 (要旨)	
--------------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

<b>事務事業名</b>	あらかわ青年大会	<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	佐藤泰祥
		<b>担当者名</b>	横山 寛	<b>内線</b>	3355
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）</b>	あらかわ青年大会（01 - 06 - 03）				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
<b>開始年度</b>	昭和 平成	38 年度	<b>根拠</b>	荒川区社会教育団体補助金交付要綱	
<b>終期設定</b>	有 無	年度	<b>法令等</b>	荒川区補助金等交付要綱	
<b>実施基準</b>	法令基準内 都基準内 区独自基準		<b>計画区分</b>	計画	非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	子育て教育都市[ ]			
	<b>政策</b>	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援[04-12]			
<b>目的</b>	青年たちの交流の場を提供し、青年活動及び青年団体活動の活性化を図る。				
<b>対象者等</b>	荒川区青年団体連合会（以下「荒青連」と略す。）				
<b>内容</b>	<p>あらかわ青年大会「あらかわ路まつり」 参加者：区内在住・在勤・在学の青年一般          &lt;平成22年度&gt; 第48回 平成22年10月17日（日）          会場：尾久小学校校庭・熊野前商店街 内 容：尾久小学校校庭では、ソーランやタップダンスを          又商店街では、北豊島学園のバトン行進をして、老若男女全ての世代が楽しめるプログラムを組んだ</p> <p>&lt;平成21年度&gt; 第47回 平成21年10月25日（日）          会場：尾久小学校校庭・熊野前商店街 内 容：尾久小学校校庭では、ソーランやアカペラを          又商店街では、カッポレを行い老若男女全ての世代が楽しめるプログラムを実施</p> <p>&lt;平成20年度&gt; 第46回 平成20年10月24日（日）          会場：あらかわ遊園・アリスの広場 内 容：アリスの広場を主会場に、出演者はもとより観客や          スタッフと一緒に楽しめるようなプログラムの演出を実施</p>				
<b>経過</b>	<p>&lt;平成17年度&gt; あらかわ路まつり あらかわ遊園・アリスの広場          &lt;平成18年度&gt; あらかわ路まつり あらかわ遊園・アリスの広場          &lt;平成19年度&gt; あらかわ路まつり あらかわ遊園・アリスの広場</p>				
<b>必要性</b>	青年大会は従来から青年団体にとって最も重要な一大イベントである。現在は青年団体主催の事業になっているが、団体の自主財源のみでは開催が困難であり、区の財政的な支援は必須である。				
<b>実施方法</b>	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
		予算額	950	950	950	950	950	950
	決算額（23年度は見込み）	950	950	950	950	950	950	950
	人件費等	3,879	3,448	3,416	2,202	1,954	2,494	
	減価償却費						930	
	【事務分担量】（%）	45	40	40	26	24	32	
	合計（+ +）	4,829	4,398	4,366	3,152	2,904	4,374	950
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	4,829	4,398	4,366	3,152	2,904	4,374	950
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	あらかわ路まつり （出演団体）	1,100 (13団体)	1,600 (10団体)	1,600 (15団体)	1,600 (12団体)	1,000 (12団体)	1,500 (15団体)	1,500 (15団体)

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	19 負担金補助 及び交付金	あらかわ青年大会補 （あらかわ路まつり）	950	あらかわ青年大会補 （あらかわ路まつり）	950	あらかわ青年大会補 （あらかわ路まつり）	950

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	出演団体数	12	12	15	15	15	
	実行委員数	50	50	70	70	70	

（問題点・課題 指標分析）	<p>&lt;平成22年度&gt; 大会そのものは成功に終わられたが、昨年同様慌しく大会当日を迎えてしまったので、実行委員を青年団体以外からも広く募り企画の検討、必要な準備も分担して動ける組織づくりをする必要がある。</p>
他区の実況	（ 実施      0      区                      未実施      22      区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
運営をスムーズに運ぶためには実行委員会をなるべく早く立ち上げ、企画・演出を検討して出演団体や参加者に早い段階で周知を図る必要がある。	青年大会当日とその前の実行委員会の円滑な運営が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	青年たちの交流の場の提供として、継続して実施する。

況議 （要旨） 質問状	
-------------------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	成人の日のつどい	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤 泰祥
		担当者名	横山 寛	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	成人の日のつどい（01-06-04）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	29年度	根拠	「成人の日の行事について」文部事務次官通達
終期設定	有	無	年度	法令等	（昭和31年12月10日）
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	成人に達した青年男女の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促す。				
対象者等	平成23年度 平成3年4月2日～平成4年4月1日生まれの成年				
内容	<p>平成22年度 平成23年1月10日（祝） 12:00～14:30</p> <p>第1部 記念式典・国歌斉唱、瑞光小児童による合唱、主催者挨拶、成人の誓い、来賓祝辞、来賓紹介、主催者紹介、</p> <p>第2部 企 画・・・1000人フリップ、ビデオレター上映</p> <p>第3部 ミニパーティー、写真コーナー、ありがとうポスト</p> <p>会場 第1・2部：大ホール 第3部：小ホール、第1～7集会室</p> <p>平成23年度 平成24年1月9日（祝）</p>				
経過	「成人の日のつどい実行委員会（企画・運営スタッフ会）」を昭和55年度から新成人を募り設置。参加者自身の手で作りに上げる方式を採用。区報で募集のほか、中学校等より推薦のあった新成人で構成。記念品の選定や、オープニングアトラクションの企画、式典の司会、2部の運営などを担当。				
必要性	新成人の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促すために必要である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				
	平成22年度 主催：荒川区・荒川区教育委員会・荒川区選挙管理委員会 協力団体等：新成人実行委員17名・青少年委員32名他				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算額		2,529	319	3,129	3,204	3,204	3,257	3,029
決算額（23年度は見込み）		1,932	2,746	2,521	2,357	2,318	2,711	3,029
人件費等		4,740	3,793	4,612	3,388	3,665	5,808	
減価償却費							2,527	
【事務分担量】（%）		55	44	54	40	45	87	
合計（+ +）		6,672	6,539	7,133	5,745	5,983	11,046	3,029
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		6,672	6,539	7,133	5,745	5,983	11,046	3,029
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	対象者（人）	1,814	1,820	1,748	1,820	1,758	1,815	2,000
	参加者（人）	943	1,023	1,018	1,018	916	960	1,000
	参加率（%）	52	56	58	56	52	53	50
	記念品	フォトフレーム時計	区紋章付ボールペン	携帯用つなぎ箸	手回し式携帯電話充電器	セラミックボールペン	フォトフレーム	未定

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	謝礼	78	謝礼	46	謝礼	164
	食料費	ミニパーティー贈等	710	ミニパーティー贈等	707	ミニパーティー贈等	710
	一般需用費	記念品等	1,202	記念品等	1,542	記念品等	1,816
	役務費	吊看板・立看板	96	吊看板・立看板	99	吊看板・立看板	100
	委託料		0	ビデオレター編集委託	53		
	使用料・賃借料	会場使用料	232	会場使用料	264	会場使用料	239

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	参加率（％）	56	52	53	60	60	

（問題点・課題分析）	成人の日のつどい会場への参加率をもう少し上げて多くの新成人の門出を祝うために「つどい」の企画内容を充実する必要がある。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区） 平成22年度 【参加率】千代田41.5中央68.1港50.4新宿39.8文京61.2台東55.9墨田56.7江東67.9品川52.7目黒48.9大田53.4世田谷61.0渋谷43.8中野50.4杉並49.5豊島46.6北56.2板橋55.9練馬61.8足立51.0葛飾61.7江戸川62.9 【記念品なし】12区 【実行委員会形式】11区

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
実行委員会にアドバイザーとして前年の実行委員に参加を促す。	前年の反省、ノウハウ等をアドバイスという形で新実行委員に伝えてもらうことで「つどい」の企画内容・運営方法の充実が図れる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	成人を祝う事業として継続して実施する。

況議（要旨）	1 8 決特（H18.10. 5）二部のパーティー内容の充実について 2 3 予特（H23. 3. ）荒川公園など屋外での実施の可能性について
--------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	伝統文化こども教室	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥												
		担当者名	横山 寛	内線	3355												
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	伝統文化こども教室																
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業													
開始年度	昭和 平成	15 年度	根拠	無し													
終期設定	有 無	22 年度	法令等														
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画												
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]															
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]															
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]															
目的	日本の伝統文化を子どもたちに体験・習得させ、次世代への継承を確かなものとして発展させることを目的とする。																
対象者等	（参加対象の範囲）小・中学生、（参加人数）原則として10人以上、（実施回数）原則として10回以上。注）平成15～21年度において、5回以上の伝統文化こども教室事業を実施した団体は申請することができない。																
内容	<p>【22年度実施状況】 実施団体及び教室名</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 荒川区囲碁連盟「伝統文化荒川こども囲碁教室」</li> <li>2 荒川区書道連盟「荒川区こども書道教室」</li> <li>3 荒川区日本舞踊連盟「荒川区こどものための日本舞踊教室」</li> </ol> <p>主催：荒川区文化団体連盟と各実施の文化団体連盟</p> <p>*文化庁委嘱事業である「伝統文化こども教室」は、平成22年度で廃止となった。 23年度以降は、荒川区文化団体連盟が、同様の趣旨の事業として「荒川区伝統文化こども教室」を実施することになった。</p>																
経過	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%;">18年度採択団体</td> <td style="width: 25%;">4団体</td> <td style="width: 25%;">21年度採択団体</td> <td style="width: 25%;">7団体</td> </tr> <tr> <td>19年度採択団体</td> <td>6団体</td> <td>22年度採択団体</td> <td>7団体 *うち1団体は事情により採択を取り下げた。</td> </tr> <tr> <td>20年度採択団体</td> <td>8団体</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					18年度採択団体	4団体	21年度採択団体	7団体	19年度採択団体	6団体	22年度採択団体	7団体 *うち1団体は事情により採択を取り下げた。	20年度採択団体	8団体		
18年度採択団体	4団体	21年度採択団体	7団体														
19年度採択団体	6団体	22年度採択団体	7団体 *うち1団体は事情により採択を取り下げた。														
20年度採択団体	8団体																
必要性	日本の伝統文化を現代の子どもたちに体験させる意義は大きい。																
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)																

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	0	0	0	0	0	0	0
	決算額（23年度は見込み）	0	0	0	0	0	0	0
	人件費等	86	517	512	932	896	523	
	減価償却費						174	
	【事務分担量】（%）	1	6	6	11	11	6	
	合計（+ +）	86	517	512	932	896	697	0
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	86	517	512	932	896	697	0
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	採択団体数	3	4	6	8	7	6	0

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
			0		0		0

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	採択団体数	8	7	6	3	5	23年度以降は荒川区後援事業として実施

（指標分）	<p>21年の行政刷新会議の事業仕分けの結果により文化庁委嘱事業としての「伝統文化こども教室」が22年度で廃止になった。このため、23年度以降は荒川区文化団体連盟が同様の趣旨の事業を継続して実施することとなったが、参加費が有料となるため、参加者数が課題である。</p>
他区の実況	<p>（実施 22 区 未実施 0 区）</p>

問題点・課題の改善策検討	
<p>平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容</p> <p>平成24年以降も荒川区伝統文化こども教室として事業を継続していく。 今年度の実施は3団体のため、関係団体と連携し参加団体を増やしていく。</p>	<p>改善により期待する効果</p> <p>荒川区の子ども達に伝統文化に対する感性を磨く機会と場所を提供し、伝統文化を未来に伝える素養を身につけられる効果が期待できる。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	日本の伝統を子どもたちに伝えていくため今後も継続する。

（状況）	<p>平成16年第3回定例会 伝統文化こども教室事業の推進について</p>
------	---------------------------------------



# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	吹奏楽コンサート	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤 泰祥
		担当者名	横山 寛	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	青少年吹奏楽コンサート（01-06-05）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	52 年度	根拠	無し	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	小・中学校で吹奏楽に接し、在校生と卒業後も活動を続けている青少年に発表の場を与えることにより、日頃の練習成果の励みとする。これにより、青少年を中心とする区民の音楽活動を一層盛んにし、区民の文化意識の高揚を図る。				
対象者等	青少年及び一般区民				
内容	平成22年度は東日本大震災の影響により中止				
	1 主催	吹奏楽のつどい実行委員会・荒川区教育委員会			
	2 実施日	23年3月13日（中止）			
	3 場所	サンパール荒川（大ホール）			
	4 参加団体	社会教育団体：4団体 高等学校吹奏楽部：1団体 中学校吹奏楽部：3団体 小学校金管バンド：3団体			
経過	昭和56年度（第1回）～「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」自主事業として実施 3団体参加 昭和60年度～ 平成6年度～ 平成22年度 平成23年度 教育委員会の主催で「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」を実施 6団体参加 教育委員会と荒川区に吹奏楽を育てる会主催で実施 14団体参加 東日本大震災の影響により中止 11団体参加予定				
必要性	継続して発表の場を与え支援することは荒川区に吹奏楽の愛好家を育てていくために必要である。				
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
		予算額	468	468	468	468	618	618
	決算額（23年度は見込み）	355	351	420	450	483	16	609
	人件費等	1,034	1,379	1,366	1,355	896	960	
	減価償却費						320	
	【事務分担当】（%）	12	16	16	16	11	11	
	合計（+ +）	1,389	1,730	1,786	1,805	1,379	1,296	609
実績の推移	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	1,389	1,730	1,786	1,805	1,379	1,296	609
	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	出演団体数	11	9	9	10	10	0	11
	入場者数	1,200	1,000	1,000	1,000	1,000	0	1,000

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	一般需用費	ポスター	17	ポスター	16	ポスター	17
委託料	照明	65	照明	0	照明	66	
使用料・賃借料	会場費・トラック	401	会場費・トラック	0	会場費・トラック	526	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	出演団体数	10	10	-	11	11	現状参加数の維持

（問題点・課題） （指標分析）	<p>1 19年度から主催を「吹奏楽のつどい実行委員会」として、文字どおり各団員自身の手によって運営されることになったが、より円滑な運営を図るためにも引き続き指導・助言が必要である。</p> <p>2 「吹奏楽のつどい」のプログラムや内容の充実を図るため少しずつでも参加団体を増やしていく必要がある。</p> <p>3 22年度の地震による実施中止を教訓に有事の際の対応も考慮して事業計画をたてていく必要がある。</p>
他区の実況	（実施 0 区                      未実施 22 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
参加団体が自主的に効率良く運営できるようにさらに指導・助言を行っていく。	区内の多くの吹奏楽愛好家に未長く「吹奏楽のつどい」を楽しんでもらうことができる。
区内小・中学校の吹奏楽部の顧問の先生に今後も参加のご案内を続ける。	出演団体が増えることによりプログラムの充実が図れる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	青少年の音楽活動の成果を発表する場として、継続して実施する。

議（要旨） 況（問状）	
----------------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

<b>事務事業名</b>	小中学校の公開講座	<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	佐藤泰祥
		<b>担当者名</b>	中島三智子	<b>内線</b>	3354
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）</b>	小中学校の公開講座（01-13-04）				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
<b>開始年度</b>	昭和 平成	6年度	根拠	無し	
<b>終期設定</b>	有 無	年度	法令等		
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	子育て教育都市[ ]			
	<b>政策</b>	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援[04-12]			
<b>目的</b>	区内の小中学校は、区民の身近な場であるうえ、多様な人材が存在しており地域における学習機会の提供の場として大変重要である。小中学校を会場に教員が講師となり、公開講座を開催することにより、区民に対して身近な場で、多様な学習機会の提供することを目的とする。				
<b>対象者等</b>	区内在住・在勤・在学の18歳以上の方				
<b>内容</b>	<p>概要 小中学校の教員等が講師となり、区民を対象とした講座を開催する。</p> <p>実施校の募集 毎年4月</p> <p>実施日時・期間 1回2時間で計5回とし、実施日時は学校による（ただし、夜間や学校休業日等の通常の勤務時間外）</p> <p>実施内容（平成23年度予定） 計10校、11講座（九中 科学講座は申込少数のため中止）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校（5校、5講座） 尾久小・六日小：パソコン、尾久六小：囲碁 五峡小：歌、三日小：パトミントン</li> <li>・中学校（5校、6講座） 一中：木版画、三中・五中：パソコン、七中：木彫 九中： 書道 中国語会話</li> </ul>				
<b>経過</b>	<p>13年度 IT（別事業として実施）講習のために、パソコン関係を除く7講座に縮小</p> <p>14年度 IT講習終了に伴い、講座数を10講座に戻す。チャレンジサタデー教室（公開講座）を含む</p> <p>17年度 12講座を募集し、11講座開催 18～21年度 12講座を募集し、10講座開催</p> <p>22年度 生涯学習推進計画で公開講座におけるIT講座の実施があげられたため、パソコン教室を4講座に増やし、計13講座開催</p>				
<b>必要性</b>	ライフスタイルの変化や価値観が多様化する中、区民の生涯学習に対する要望に応じて、身近な場で多様な学習機会を提供する必要性は高い。				
<b>実施方法</b>	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>主催 荒川区教育委員会、各小中学校</p> <p>実施方法 各小中学校が開催し、講師謝礼及びチラシ等に要する経費については社会教育課で負担。消耗品等については受益者負担とする。</p>				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
<b>予算・決算額等の推移</b>	予算額	850	840	900	900	900	974	1,010
	決算額（23年度は見込み）	810	740	780	752	720	974	840
	人件費等	1,551	862	854	932	896	1,395	
	減価償却費						465	
	【事務分担当】（%）	18	10	10	11	11	16	
	合計（+ +）	2,361	1,602	1,634	1,684	1,616	2,834	840
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	2,361	1,602	1,634	1,684	1,616	2,834	840
<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>	<b>17年度</b>	<b>18年度</b>	<b>19年度</b>	<b>20年度</b>	<b>21年度</b>	<b>22年度</b>	<b>23年度</b>
	小学校	6校	6校	6校	6校	5校	7校	5校
	中学校	3校	4校	3校	3校	4校	5校	5校
	講座数	11講座	10講座	10講座	10講座	10講座	13講座	11講座
	受講者数	233人	183人	183人	194人	167人	178人	180人

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報償費	講師謝礼・助手謝礼	720	講師謝礼・助手謝礼	974	講師謝礼・助手謝礼

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	講座数	10	10	13	12	13	
	実施校	9	9	12	11	13	
	申込み率	108	89	73	100	100	申込者数 / 募集定員

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ IT推進をしているパソコン講座が、本年度各地域に分散して4校実施出来たので継続していきたい。</li> <li>・ 講座を実施している教諭が異動すると実施が難しくなる。</li> </ul>
------------	--

他区の実況	<p style="text-align: center;">（ 実施 20 区                      未実施 2 区 ）</p> <p>港区（大学）、文京区（大学）、品川区（高校・大学）、世田谷区（大学・短期大学）、渋谷区（大学）、杉並区（大学）、豊島区（大学）、練馬区（大学）、板橋区（大学）、江東区（小中学校）、墨田区（小中学校）、葛飾区（大学）、江戸川区（高校）、新宿（高校）中央区（高校）、千代田区（大学）、足立（小中学校・幼）、中野区（大学等）、大田区（大学）、目黒（大学）      （      ）は連携先の学校種別</p>
-------	--

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
実施していない学校などに呼びかけ、新たな講座の開講を促す。	多様な内容で講座が実施されることにより、様々なニーズを持った方への学習機会を提供できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	区民の身近な場で多様な学習機会を提供するために継続して実施する。

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

<b>事務事業名</b>	荒川区文化祭	<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	佐藤泰祥
		<b>担当者名</b>	清水正人	<b>内線</b>	3354
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）</b>	文化祭（01-10-01）				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
<b>開始年度</b>	昭和 平成	27 年度	<b>根拠</b>	無し	
<b>終期設定</b>	有 無	年度	<b>法令等</b>		
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>	計画 非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	子育て教育都市[ ]			
	<b>政策</b>	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援[04-12]			
<b>目的</b>	日頃研鑽を重ねている各々の文化活動の成果を、広く区民一般に発表する場を提供することにより、更なる活動意欲の向上、区民文化の向上を図る。				
<b>対象者等</b>	各団体会員と区民一般				
<b>内容</b>	<p>各団体（平成22年度は22団体）が、文化の日を中心に大会、展示会を行っている。</p> <p>日本舞踊大会 区民音楽会 写真展 民踊大会 謡曲大会（観世流・宝生流）          華道展・茶席 俳句大会・展示会 囲碁大会 民謡大会 菊花展          詩吟と剣舞の大会 盆栽展 盤景展 ソシアルダンス大会 歴史資料展          書道展 美術展 大太鼓盆踊り大会 邦楽大会 バレエコンサート          歌謡大会 さつき紅葉実物展</p> <p>荒川区文化団体連盟 22団体          荒川区日本舞踊連盟 荒川区音楽連盟 全荒川写真連盟 荒川区民踊連盟 荒川区謡曲連盟          荒川区華道茶道文化会 荒川区俳句連盟 荒川区囲碁連盟 荒川区民謡協会 荒川菊花会          荒川区吟剣詩舞道連盟 荒川盆栽山野草会 荒川盤景会 荒川区ソシアルダンス連盟 荒川史談会          荒川区歌謡協会 荒川区臯月会</p>				
<b>経過</b>	平成元年度 21団体参加 平成13年度 22団体参加 荒川区歌謡協会加盟 平成15年度 23団体参加 荒川区臯月会加盟 平成17年度 22団体参加 荒川区美術刀剣連盟退会（17年5月）				
<b>必要性</b>	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動の成果を発表することにより、活動をさらに充実させる機会となっているため、必要である。				
<b>実施方法</b>	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 主催：荒川区・荒川区教育委員会・荒川区文化団体連盟 主管：連盟加盟各団体				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	6,422	6,122	6,295	6,320	6,414	6,536	7,240	
決算額（23年度は見込み）	5,741	5,633	5,969	5,732	5,753	5,665	7,240	
人件費等	7,240	8,447	8,967	7,369	6,108	6,645		
減価償却費						2,411		
【事務分担量】（%）	84	98	105	87	75	83		
合計（+ +）	12,981	14,080	14,936	13,101	11,861	14,721	7,240	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	12,981	14,080	14,936	13,101	11,861	14,721	7,240	
<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
出演・参加者数	2,498	2,430	2,657	3,185	2,544	2,246	2,500	
出品者数	1,119	895	811	991	823	956	1,000	
参観者数	19,202	17,415	17,061	16,776	17,319	16,484	20,000	

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		報償費	講師謝礼	276	講師謝礼	276	講師謝礼
一般需用費	プログラム等	552	プログラム等	569	プログラム等	641	
役務費	筆耕料・保険料等	557	筆耕料・保険料等	373	筆耕料・保険料等	647	
委託費	会場設営委託	985	会場設営委託	1,136	会場設営委託	1,008	
使用料・賃借料	会場使用料等	3,383	会場使用料等	3,312	会場使用料等	3,668	
補助金					周年記念事業補助金	1,000	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	参加者・観覧者数	20,952	20,686	19,686	25,000	25,000	
	大会&展示会数	25	25	25	25	25	

（問題点・課題）	<p>参加者や観覧者が固定化する傾向にある。 団塊世代が定年を迎える中、新しい人材を取り込み、各団体の活性化を図る必要がある。</p>
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	裾野を広げ観覧者を増やすため、チラシの配布場所やホームページの活用等周知方法を工夫する。	一般の観覧者が増えることにより、文化団体の活動に関心を持つ人が増えることが期待できる。
	伝統文化子ども教室や文化総合講座に参加している子どもの作品を展示するだけでなく、文化祭期間中に子ども向けの講座等の実施を検討する。	文化活動に関心を持つ子ども、保護者が増えることにより、区民の文化向上につながる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	区民の文化向上のために、寄与している。

（議会要旨）	
--------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	さくらそう展示会	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	中島 三智子	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	さくらそう展示会				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	61 年度	根拠	無し	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	「江戸名所花暦」に「尾久の原の優雅な花摘みの図」として紹介されているように、荒川区のゆかりある花であるさくらそうを展示することにより、荒川区の歴史と文化を伝えるとともに、古典園芸に対する理解と普及を図る。				
対象者等	区民・その他来庁者				
内容	<p>&lt; 22年度実績 &gt;</p> <p>1 主 催：荒川さくらそう会・荒川区教育委員会</p> <p>2 実施方法：区役所正面玄関に展示会場の設営・展示</p> <p>3 開催時期：毎年4月中旬（月曜～金曜）</p> <p>4 事業内容：さくらそう会 さくらそうの展示 観覧者への栽培説明 苗の販売 年報の発行 教育委員会 パンフレット作成 区報・HPの掲載 会場の確保</p> <p>5 実 績： 出品者数 9名 出品鉢数49鉢 参観者数 約700名</p>				
経過	<p>1 荒川さくらそう会の会長を中心に運営されている（日本を代表するさくらそう栽培家）</p> <p>2 区役所の正面玄関で展示会 昭和61年4月開始</p> <p>3 荒川さくらそう会 平成6年2月発足</p>				
必要性	江戸時代の寛文年間（1661～1672）から栽培が始められたと云われる苗の品種（約300種）等希少植物の保存伝承に尽力されている会の展示事業は、荒川区の郷土の花ともいえるさくらそうを育むため大変貴重であり、さらに発展させて行く必要がある。				
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>教育委員会 パンフレット作成 区報・HPの掲載 会場の確保 さくらそう会 さくらそうの展示 観覧者への栽培説明 苗の販売 年報の発行</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	0	0	0	0	0	0	0	
決算額（23年度は見込み）	0	0	0	0	0	0	0	
人件費等	86	431	427	254	244	262		
減価償却費						87		
【事務分担量】（%）	1	5	5	3	3	3		
合計（+ +）	86	431	427	254	244	349	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	86	431	427	254	244	349	0	
実績の推移	事項名							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
出品者数	9	9	10	9	9	9	10	
出品鉢数	48	52	51	50	50	49	50	
参観者数	1,000	800	1,000	800	800	700	800	

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
			0		0		0

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	出品鉢数	50	50	49	50	50	

（問題点・課題）	<p>会長の宮本氏は全国でも珍しい種類のさくらそうを育成し、区民に親しんでもらうため展示を行っているが、さくらそうの育成は大変難しく、時間もかかるため後継者が育っていない。 荒川区の郷土の花とも云うべきさくらそうを絶やすことなく未長く育てていくために、今後も区報やHP等への掲載等による区民へのPRや、展示会場の確保等の支援をしていく必要がある。</p>
他区の実施状況	<p>（実施 1 区 未実施 21 区）</p> <p>北区（浮間公園）</p>

問題点・課題の改善策検討	
問題点・課題	改善策
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区報やHPへの掲載はもとより、パンフレットの作成についても助言し積極的にPRしていく。	区内外から多くの見学者を呼び込み、希少・貴重なさくらそうの展示を楽しんでもらう。
荒川さくらそう会をなお一層もりあげ、後継者育成に努めていただく。	希少なさくらそうを絶やすことなく伝承していきける。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	荒川区の由縁ある花の理解と普及を図るため、継続して実施する。

（状況）	
------	--



# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

<b>事務事業名</b>	文化団体連盟補助	<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	佐藤泰祥
		<b>担当者名</b>	清水正人	<b>内線</b>	3354
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）</b>	文化団体連盟補助（01-14-02）				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
<b>開始年度</b>	昭和 平成	39 年度	<b>根拠</b>	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱	
<b>終期設定</b>	有 無	年度	<b>法令等</b>		
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>	計画 非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	子育て教育都市[ ]			
	<b>政策</b>	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援[04-12]			
<b>目的</b>	区民の文化活動に中心的な役割を果たしている文化団体を統括する団体（荒川区文化団体連盟）に対し、区民の文化向上のために実施する事業を奨励し、荒川区の文化振興に寄与する。				
<b>対象者等</b>	荒川区文化団体連盟 加盟団体（22団体） 荒川区日本舞踊連盟 荒川区音楽連盟 全荒川写真連盟 荒川区民踊連盟 荒川区謡曲連盟 荒川区華道茶道文化会 荒川区俳句連盟 荒川区囲碁連盟 荒川区民謡協会 荒川菊花会 荒川区吟剣詩舞道連盟 荒川盆栽山野草会 荒川盤景会 荒川区ソーシャルダンス連盟 荒川史談会 荒川区書道連盟 荒川区美術連盟 荒川区大太鼓連盟 荒川区邦楽連盟 荒川区洋舞連盟 荒川区歌謡協会 荒川区臯月会				
<b>内容</b>	目的を達成するため、次の事業に対し補助金を交付する。 （1）加盟各文化団体相互の親睦と情報の交換 （2）文化祭等、行事への参加または協力 （3）その他、目的達成のために必要な事業				
<b>経過</b>	平成元年度 21団体加盟 平成13年度 22団体加盟 荒川区歌謡協会 加盟 平成15年度 23団体加盟 荒川区臯月会 加盟 平成17年度 22団体加盟 荒川区美術刀剣連盟 脱退				
<b>必要性</b>	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動を支援することにより、文化活動をさらに充実させるため必要である。				
<b>実施方法</b>	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	2,070	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	
決算額（23年度は見込み）	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	
人件費等	948	517	769	932	896	960		
減価償却費						320		
【事務分担量】（%）	11	6	9	11	11	11		
合計（+ +）	2,928	2,497	2,749	2,912	2,876	3,260	1,980	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	2,928	2,497	2,749	2,912	2,876	3,260	1,980	
実績の推移	<b>事項名</b>	<b>17年度</b>	<b>18年度</b>	<b>19年度</b>	<b>20年度</b>	<b>21年度</b>	<b>22年度</b>	<b>23年度</b>
	団体数	22	22	22	22	22	22	22

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		負担金補	文化振興補助金	1,980	文化振興補助金	1,980	文化振興補助金

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	連盟加盟団体数	22	22	22	22	22	現状の団体数を維持していく

（問題点・課題）	団体役員及び所属会員の高齢化が進んでいる。会員の加入促進を図る必要がある。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区） 文化財団等への補助及び事業補助を含む

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
各文化団体の実施事業を積極的に区民に周知するよう指導・助言等を行う。	会員の加入促進につながり、団体が活性化する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	区民の文化向上のために寄与し、優先度が高い。

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	文化講座補助	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	清水正人	内線	3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	文化講座（01-14-03）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成 元 年度	根拠	荒川区町屋文化センター文化講座補助金交付要綱		
終期設定	有 無 年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	荒川区文化団体連盟主催の、町屋文化センターで実施する文化総合講座に要する経費を補助することにより、その適正な運営と発展を図り、もって荒川区の文化振興に寄与する。				
対象者等	文化団体連盟				
内容	1 文化団体連盟の自主事業である文化総合講座に対して補助する。 2 4月期、7月期、10月期、1月期の3ヵ月を単位として受講生を募集する。 3 補助対象経費（平成22年度実績）会場使用料、チラシ印刷、チラシ折込、受講証印刷、文化総合講座学習成果発表会、ポスター印刷 主な講座：ジュニアアート80/120 囲碁146/160 土曜歌謡120/120 童謡を歌う会271/260 水彩画125/120 実用文字B 92/160 [受講者（人）/定員（人）]				
経過	平成元年1月～3月まで、町屋文化センター開設に合わせて開講した。当初は、講師が教室運営を行う。平成元年4月より、運営委員会を組織し、教室運営を行う。 平成13年度より、会場使用料を全額補助から半額補助に変更した。それに伴い、受講料を100円値上げした。 平成14年度より、ジュニア向け講座として7月より囲碁、10月より書道・美術を開講 平成19年度は、区制75周年に伴い、子ども・高齢者対象の事業やボランティア活動を実施している団体への支援を行った。				
必要性	連盟の主催する各講座は、地域の人材を活用し、区民に様々な生涯学習の機会を与えるとともに、日本の伝統文化の継承を担っており、その必要性は年々高まってきている。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 文化総合講座を開催している文化団体連盟による運営委員会方式 運営委員長 泉緑美（荒川区日舞連盟）（H19.5就任） 運営委員数 4名（委員長 1名、会計 2名、書記 1名）				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	3,153	3,153	4,153	3,153	3,353	3,353	3,353
	決算額（23年度は見込み）	3,153	3,153	4,153	3,153	3,353	3,353	3,353
	人件費等	948	948	940	932	896	969	
	減価償却費						320	
	【事務分担量】（%）	11	11	11	11	11	11	
	合計（+ +）	4,101	4,101	5,093	4,085	4,249	4,642	3,353
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	4,101	4,101	5,093	4,085	4,249	4,642	3,353
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	講座数	28	28	28	28	28	29	28
	受講者数	2,167	2,206	2,318	2,103	2,093	2,154	2,100

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金補	文化総合講座補助	3,353	3,353	文化総合講座補助	3,353	文化総合講座補助

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	受講率%	63%	65%	62%	65%	70%	受講生 / 定員
	学習成果発表会 出品・出演者数	269人 380人	279人 500人	中止	280人 450人	320人 450人	上段（展示の部出品者数） 下段（舞台発表者数）
	学習成果発表会 参観者延べ人数	1500人	1550人	中止	1600人	1600人	22年度は震災により開催中止

（問題点・課題分析）	<p>人数があまり集まらない講座においても日本の伝統的文化の継承と言った観点から、継続して開講して行く必要がある。</p>
他区の実況	（実施 0 区                      未実施 22 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	ジュニア講座をより強化し、子どもの参加者を増やす。	子どもの参加者を増やすとともに伝統文化の継承を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	区民の文化向上のために寄与し、優先度が高い

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

<b>事務事業名</b>	女性団体補助	<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	佐藤泰祥																		
		<b>担当者名</b>	服部好恵	<b>内線</b>	3352																		
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）</b>	女性団体補助（01-11-01）																						
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業																		
<b>開始年度</b>	昭和 平成 39 年度	<b>根拠</b>	荒川区補助金等交付規則																				
<b>終期設定</b>	有 無 年度	<b>法令等</b>	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱																				
<b>実施基準</b>	法令基準内 都基準内 区独自基準	<b>計画区分</b>	計画	非計画																			
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	子育て教育都市[ ]																					
	<b>政策</b>	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]																					
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援[04-12]																					
<b>目的</b>	女性団体が行う社会教育関係事業を奨励し、団体の健全な育成を期することにより、区民の社会教育振興に寄与する。																						
<b>対象者等</b>	女性団体																						
<b>内容</b>	<p>「補助団体」平成23年4月現在</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">団体名</td> <td style="text-align: center;">代表者</td> <td style="text-align: center;">役員数</td> </tr> <tr> <td>三河島母の会</td> <td>小沢 よし子</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>尾久母の会</td> <td>阿久津 敬子</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td>日暮里母の会</td> <td>上村 詳子</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td>荒川区婦人学級連絡会</td> <td>田中 峯二子</td> <td>22名（会員数）</td> </tr> <tr> <td>荒川区更生保護女性会</td> <td>遠田 茂子</td> <td>23名</td> </tr> </table>					団体名	代表者	役員数	三河島母の会	小沢 よし子	16名	尾久母の会	阿久津 敬子	28名	日暮里母の会	上村 詳子	20名	荒川区婦人学級連絡会	田中 峯二子	22名（会員数）	荒川区更生保護女性会	遠田 茂子	23名
団体名	代表者	役員数																					
三河島母の会	小沢 よし子	16名																					
尾久母の会	阿久津 敬子	28名																					
日暮里母の会	上村 詳子	20名																					
荒川区婦人学級連絡会	田中 峯二子	22名（会員数）																					
荒川区更生保護女性会	遠田 茂子	23名																					
<b>経過</b>	<p>&lt;補助団体数&gt;</p> <p>平成3年度～ 5団体（南千住母の会 三河島母の会 尾久母の会 日暮里母の会 荒川区婦人学級連絡会）</p> <p>平成4年度～ 6団体（荒川区女性団体の会の加入）</p> <p>平成6年度～ 7団体（荒川区更生保護婦人会の加入）</p> <p>平成12年度～ 6団体（荒川区女性団体の会が文化青少年課へ移管された）</p> <p>平成16年度～ 6団体（荒川区更生保護婦人会が荒川区更生保護女性会に団体名変更）</p> <p>平成23年度～ 5団体（南千住母の会が休会）</p>																						
<b>必要性</b>	女性団体の行う地域事業は、地域活動や社会教育の発展につながっている。そのため、今後とも女性団体の活動の支援が必要である。																						
<b>実施方法</b>	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）																						

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算額		600	600	600	600	600	600	500
決算額（23年度は見込み）		600	600	600	600	600	600	500
人件費等		948	948	342	339	162	174	
減価償却費							58	
【事務分担量】（%）		11	11	4	4	2	2	
合計（+ +）		1,548	1,548	942	939	762	832	500
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源		1,548	1,548	942	939	762	832	500
<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>	<b>17年度</b>	<b>18年度</b>	<b>19年度</b>	<b>20年度</b>	<b>21年度</b>	<b>22年度</b>	<b>23年度</b>
	補助団体数	6団体	6団体	6団体	6団体	6団体	6団体	5団体

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	補助金	事業・活動費等	600	600	事業・活動費等	600	事業・活動費等

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	団体数	6	6	6	5	5	

（問題点・課題）	会員の高齢化が進み、若年層の加入促進が必要である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区） 団体補助または事業補助を実施。

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
地域活動等を通じて、若年層の加入促進を行うよう指導・助言等を行う。	女性団体の継続・強化を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	地域活動や社会教育の発展に寄与している。

況（要旨）	議（質問状）
-------	--------

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

<b>事務事業名</b>	青年団体連合会補助	<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	佐藤泰祥
		<b>担当者名</b>	横山 寛	<b>内線</b>	3355
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）</b>	青年団体連合会補助（01-11-02）				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
<b>開始年度</b>	昭和 平成	48 年度	根拠	荒川区補助金等交付規則	
<b>終期設定</b>	有 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱	
<b>実施基準</b>	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	子育て教育都市[ ]			
	<b>政策</b>	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援[04-12]			
<b>目的</b>	青年団体が行う社会教育関係事業を奨励し、団体の健全な育成を期することにより、区民の社会教育振興に寄与する。				
<b>対象者等</b>	荒川区青年団体連合会				
<b>内容</b>	<p>&lt; 補助団体 &gt; 荒川区青年団体連合会</p> <p>&lt; 青年団体連合会加盟団体 &gt; 10団体                  荒川一丁目日本町会青年部      ふるさと荒川ふれあい広場                  ユーセブタクローズクラブ      二の坪町会青年部      荒川区商連青年部                  Mu - kyoca      Dreamsあらかわバンド会      心の会                  寄せ鍋      代表バンド</p> <p>&lt; 平成22年度活動状況 &gt;                  5月： 総会                  6月： スポーツ大会（ボーリング大会）                  8月： リーダー研修会                  10月： あらかわ青年大会（あらかわ路まつり）                  2月： 冬期研修      その他、毎月理事会を開催</p>				
<b>経過</b>	昭和43年 荒川区青年団体連合会結成（40団体・400人参加） 都内で8番目の青年団体連合体 平成10年 結成30周年記念事業として「フレンドシップ神津島」を実施 平成20年 結成40周年を迎えた				
<b>必要性</b>	荒川区青年団体連合会は多くの課題を抱えながらも、冬期研修やスポーツ大会等の団体の交流事業をはじめさまざまな活動を行ってきたが、青年団体活動の活性化に向けて、連合会の自主財源だけでは実施が困難であり、財政的な支援は必須である。				
<b>実施方法</b>	（1直営）      （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
<b>予算・決算額等の推移</b>	予算額	257	257	257	257	257	257	257
	決算額（23年度は見込み）	257	142	257	257	257	257	257
	人件費等		517	512	932	895	960	
	減価償却費						320	
	【事務分担量】（%）		6	6	11	11	11	
	合計（+ +）	257	659	769	1,189	1,152	1,537	257
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	257	659	769	1,189	1,152	1,537	257
<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>	<b>17年度</b>	<b>18年度</b>	<b>19年度</b>	<b>20年度</b>	<b>21年度</b>	<b>22年度</b>	<b>23年度</b>
	加盟団体数	10	9	8	8	10	10	10

事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		負担金補助及び交付金	青年団体連合会補助金	257	青年団体連合会補助	257	青年団体連合会補助

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	加盟団体数	8	10	10	10	10	

（問題点・課題分析）	余暇活動の多様化などによる青年層の意識の変化により青年団体としての組織化や団体としての活動が困難になってきている今、荒川区青年団体連合会の組織強化が課題である。
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	団体の組織強化を図るため区内青年層に団体の存在を周知し、理解してもらう。 また各種イベントを通じて団体活動の魅力を体感してもらい、団体の加入促進を押しすすめていく。	団体を組織する個々の負担が軽減でき、団体の運営が円滑になる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	地域活動や社会教育の発展に寄与している。

況議（要質問状）	
----------	--



# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	少年団体指導者連絡会補助	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	加藤健治	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	少年団体指導者連絡会補助（01-11-03）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	48 年度	根拠	荒川区補助金等交付規則	
終期設定	有 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	少年団体が行う社会教育関係事業を奨励し、団体の健全な育成を期することにより、区民の社会教育振興に寄与する。				
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会（以下一部で「荒少連」と略す）				
内容	補助団体 荒川区少年団体指導者連絡会 加盟団体 15団体 南千住一丁目東町町会子ども会 南千協和子ども会 南千住中央町会子ども会 新光子ども会 荒川交通少年団 南千住六丁目日本町会青少年部 銀成町会青少年部 西尾久中町会青少年部 レインボー子ども会 西尾久八丁目町会青少年部子ども会 ウェスタンエイト子ども会 尾久地区青少年団体連合会 ユーセブン・タクローズクラブ・タクローズ子ども会 尾久母の会子ども会 尾久交通少年団 特別団体会員 5団体 リバーパーク汐入町会 胡録和太鼓 九十九太鼓 南千住協和会 十久日会 個人会員 131名 シニアリーダー 19名				
経過	昭和40年 荒川区少年団体指導者連絡会設立 平成17年2月 荒川区少年団体指導者連絡会40周年記念式典・祝賀会開催 平成22年3月 荒川区少年団体指導者連絡会45周年記念式典・祝賀会開催				
必要性	異年齢集団の仲間や友達と過ごすことが少なく、体験の不足などにより集団行動が苦手で、協調性に欠ける子どもが増えている中、子どもが様々な体験をする機会を増やすために子ども会組織の健全な育成は必要である。				
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

		（単位：千円）						
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算・決算額等の推移	予算額	257	257	300	300	300	300	300
	決算額（23年度は見込み）	257	257	300	300	300	300	300
	人件費等	948	517	512	508	895	960	
	減価償却費						320	
	【事務分担量】（%）	11	6	6	6	11	11	
	合計（+ +）	1,205	774	812	808	1,195	1,580	300
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	1,205	774	812	808	1,195	1,580	300
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	加盟団体	21	21	20	21	21	21	20
	個人会員	166	169	165	156	156	160	131

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金・交付金	荒少連補助金	300	荒少連補助金	300	荒少連補助金	300

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	加盟団体数（団体）	21	21	21	20	22	
	個人会員数（名）	156	156	160	131	170	
	シニアリーダー数（名）	11	14	18	19	20	

（問題点・課題）	地域で子どもを育てるという意識が薄れている。個人会員数が年々減少している。
他区の実況	（実施 10 区                      未実施 12 区）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
子ども会大会や加盟団体交流会等の行事の中で、加盟団体同士の交流を図りながら、子ども会の数を維持し、個々の子ども会活動の充実につながるよう、荒少連に助言・指導する。	地域の子どもが子ども会に加入できる可能性を残していくとともに、加入している子どもたちに子ども会活動を通じた豊かな経験をさせる効果が期待できる。
地域で子どもを育てることの大切さを伝え、個人会員を増やしていけるよう、支援する。	個人会員の増加は、荒少連の活動を内外から支え、活動の充実や子ども会づくりにつなげる効果が期待できる。
荒少連シニアリーダー部は増加傾向にあるがさらなる活性化を目指し、支援する。	小中学生と年齢の近いシニアリーダーが活躍することにより、子ども会活動の発展や活性化につなげる効果が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	子ども体験活動を支えている団体への支援であり、優先度が高い。

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	人権教育推進費	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	中島三智子	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	人権教育推進費（01-12-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	48 年度	根拠	人権教育及び人権啓発の推進に関する法	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	基本的人権を尊重することの大切さを正しく理解し、これを体得することができるよう学習の機会を提供する。				
対象者等	区民一般				
内容	<p>平成22年度                      みんなで人権を考える講座・「CAPワークショップ」 講師：NPO法人CAPユニット                      内容：子ども向けワークショップ「子ども自身が様々な暴力から子どもを守る方法」大人向けワークショップ「家庭で、学校で、地域全体で子どもが安心して暮らしていくために、困っている子どもがいる時に大人ができること」</p> <p>平成21年度                      みんなで人権を考える講座・ワークショップ「コツ通りを考えるpart.2」（part.1は18年度に実施）                      みんなで人権を考える講座・人権ワークショップ「三河島の今昔～近代史から地域を考える～」</p> <p>平成20年度                      みんなで人権を考える講座・ワークショップ「いじめ・いのちを損なうもの・自殺を防止するため」</p>				
経過	平成9年度まで 部落解放同盟荒川支部（以下「支部」と略す）に対して補助金を交付 平成10年度 一部の事業について支部と共催。 平成13年度 サマーキャンプと女性交流研修を廃止。 平成14年度 デイキャンプ、地域交流教室（子ども会）、青年スポーツ交流会、地域交流教室を一般施策化				
必要性	すべての区民の人権が尊重される社会の実現に寄与するため必要である。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算・決算額等の推移	118	44	104	104	104	104	98	
予算額	118	44	104	104	104	104	98	
決算額（23年度は見込み）	29	10	0	9	43	70	98	
人件費等	948	603	472	423	244	923		
減価償却費						465		
【事務分担量】（%）	11	7	5	5	10	16		
合計（+ +）	977	613	472	432	287	1,458	98	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	977	613	472	432	287	1,458	98	
実績の推移								
事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
講座（数）	1	2	1	1	2	1	1	
参加者数	50	50	50	88	60	45	60	

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
報償費	講師・託児謝礼		30	講師・託児謝礼	66	講師・託児謝礼	90
	一般需用費	講座用消耗品費	13	講座用消耗品費	4	講座用消耗品費	8

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	講座への参加者数	88	60	45	60	60	

（問題点・課題）	生活の中にある、身近な問題（高齢者・外国人・障がい・性・ワークライフバランス・児童虐待・いじめ・命等）を人権問題として捉え、人権意識を高めていく必要がある。
他区の実施状況	（実施 16 区 未実施 6 区） 教育委員会での実施は16区である。

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
人権教育講座を単独で考えるのではなく、他の講座開催などにも人権感覚を取り入れ、テーマ・対象を絞り込んで実施する。	区民が人権に関する問題を身近に捉えることができ、人権意識を理解することができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	基本的人権を尊重することの大切さを正しく理解し、人権意識を高めていく必要があり、継続して実施する。

（状況）	議会要旨
------	------

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	社会教育サポーター	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤 泰祥
		担当者名	恩幣いづみ	内線	3351
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	社会教育サポーター（01-19-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	17 年度	根拠	荒川区社会教育サポーター設置要綱(平成17年9月制定)	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	生涯学習に関する能力・技術などを持つ区民(個人・団体)を社会教育サポーター(人材バンク)として登録し、サポーターが地域における生涯学習活動への助言・指導を行うことにより、青少年健全育成及び生涯教育の振興を図る。				
対象者等	地域団体(町会・女性・高齢者・青少年対策地区委員等)、社会教育団体(青少年委員・PTA・文化・伝統工芸技術・少年・青年等)、前記団体・教職員等のOB、能力・技術をもつ個人・団体等地域活動に関心・興味をもっている区民。				
内容	社会教育サポーターが、生涯学習を進める区民・団体の求めに応じて、指導・助言などの活動を行う。社会教育課において、依頼者とサポーターのコーディネートを行う。社会教育サポーターの情報交換や研修のためにサポーター全体会の開催や通信の発行を行う。				
経過	平成17年度：サポーター登録者全体会の開催...サポーターによる「子ども会づくりのためのパネルディスカッション」を開催 平成18年度：サポーター登録者全体会の開催...講師：倉持伸江氏「大人の学び」についての講話と話し合い。 平成19年度：サポーター登録者全体会の開催...講師：佐々木英和氏「実年の学習・社会参加支援のヒント」講演と体験発表、サポーター間の交流を図るため、「社会教育サポーター通信」を発行。 平成20年度：サポーター登録者全体会の開催...講師：中村好江氏「地域における生涯学習支援活動の現状と課題」講演と体験発表、サポーター間の交流を図るため、「社会教育サポーター通信」を発行。 平成21年度：サポーター登録者全体会の開催...講師：松田道雄氏「これからの日本の地域活動と、そこで活躍できる社会教育サポーターの活動内容」講演とグループワーク、「社会教育サポーター通信」発行。 平成22年度：地域活動見本市(サポーター登録者全体会の開催)...講師：笹井宏益「笑顔あふれる地域活動のススメ」講話とグループワーク、地域活動団体の展示・発表 制度発足から5年が経過し登録者が増加する一方、全く活動していないサポーターもいたため、登録の意思の再確認を行い、サポーター登録を更新した。(平成23年4月1日現在登録数：120)				
必要性	区民の持つ技術・技能の活用を図るとともに、多様化する区民ニーズにこたえる社会教育サポーター制度は、生涯学習の推進に欠かせないものであり、必要性は高い。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	200	200	200	200	210	114	135	
決算額(23年度は見込み)	80	122	141	115	57	60	135	
人件費等	1,034	1,793	573	853	1,141	1,273		
減価償却費						1,017		
【事務分担量】(%)	12	21	21	30	42	35		
合計(+ +)	1,114	1,915	714	968	1,198	2,350	135	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	1,114	1,915	714	968	1,198	2,350	135	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	社会教育サポーター登録数	105	127	132	180	213	120	150
	社会教育サポーター活用数	1	30	32	70	44	64	60

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
			金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）
	報償費	サポーター講習会	23	サポーター講習会	26	サポーター講習会	52
	食糧費	食糧費	8	食糧費	6	食糧費	20
	消耗品費	消耗品	0	消耗品	0	消耗品	11
	保険料	傷害保険料	27	傷害保険料	28	傷害保険料	54

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	登録者数	180	213	120	150	200	登録者数
	活用数	70	44	64	60	100	サポーター活動数

（問題点・課題）	<p>サポーターの活動数の伸びが小さい。より多くのサポーターに活動に参加してもらうために、能力・技術の活用方法を検討する必要がある。 潜在的なサポーター需要は多いと考えられるため、制度について一層の周知を図る必要がある。</p>
他区の状況	<p>（実施 22 区 未実施 区）</p> <p>生涯学習指導者・講師等情報提供、人材バンク等</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
区報、CATV、HPなどでサポーター制度のPRに努める。	サポーターを活用したい区民に広く周知できる。
区で実施している様々な行事や社会教育団体での活用方法を検討する。	自主的な学習グループ・町会団体などへの更なる活用の場が広がる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	青少年の健全育成・生涯教育の振興を図るために、区民の協力を得る事業として、優先度が高い。

（議会要旨）	平成19年 区民人材の活用方策について
--------	---------------------

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	(仮称)吉村昭記念文学館関連事業	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	坂入康弘	内線	3353
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(23年度)	(仮称)吉村昭記念文学館推進事業(01-15-01) 吉村昭記念事業(01-15-02)				
事務事業の種類	新規事業 (23年度 22年度)		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	18年度	根拠	無し	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	郷土を代表する作家、故吉村昭氏の業績を記念する(仮称)吉村昭記念文学館の設置に向けて、文学館の内容に関する検討を進めると共に、氏を追悼するイベントや作品の普及啓発を行う。				
対象者等	区民ほか				
内容	(仮称)吉村昭記念文学館推進委員会 学識経験者、専門有識者、地域関係者などからなる推進委員会を設置し、(仮称)吉村昭記念文学館基本構想に基づく展示等に関する具体的な計画の検討や、文学館設置に向けた幅広い議論を行う。				
経過	平成18年7月31日吉村昭氏没 平成18年11月 文学館のあり方に関する懇談会実施(～19年3月) 平成19年1月 吉村昭氏追悼講演会(瀬戸内寂聴氏らによる鼎談) 平成19年6月 (仮称)吉村昭記念文学館基本構想委員会(～20年3月) 平成19年7月 吉村昭氏追悼講演会と座談会 平成20年7月 吉村昭氏追悼イベント「吉村昭の世界」 平成20年7月 (仮称)吉村昭記念文学館推進委員会(～20年3月) 平成21年6月 平成21年度吉村昭記念企画展「作家・吉村昭のふるさと～あらかわ・にっぽり～」 平成21年6月 (仮称)吉村昭記念文学館推進委員会 平成22年6月 平成22年度吉村昭記念企画展「作家・吉村昭の交遊録」 平成22年6月 (仮称)吉村昭記念文学館推進委員会				
必要性	荒川区出身の優れた作家である吉村氏の業績を後世に伝えることは、吉村氏と同時代に生きる私たちの責務である。将来の荒川区民が、吉村文学を通して、より深く文学に触れたり、個々の人間性を高めるとともに、荒川区における文化を深めていくことに寄与する機能が望まれる。こうした文学館の構築に向け、具体的な検討を進めるとともに、区民への周知と理解を図り、区民の参画による文学館づくりを推進していくことが大切である。				
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	学芸員資格を有する専門非常勤職員を採用し、吉村文学に関する調査研究を実施している。				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額		10,569	13,094	19,860	20,694	21,679	12,301	
決算額(23年度は見込み)		11,004	12,432	14,730	15,672	12,159	12,301	
人件費等		3,586	8,540	21,822	23,623	25,813		
減価償却費						14,525		
【事務分担量】(%)		42	100	400	500	500		
合計(+ +)	0	14,590	20,972	36,552	39,295	52,497	12,301	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	14,590	20,972	36,552	39,295	52,497	12,301	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	記念講演会等参加者		1,250	450	700	90	89	90
	記念企画展示来場者				2,166	1,738	1,782	

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）		
	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	
予算・決算の内訳	01報酬	非常勤職員報酬	7,906	非常勤職員報酬	7,981	非常勤職員報酬	
	04共済費	社会保険料（非常勤）	990	社会保険料（非常勤）	1,042	社会保険料（非常勤）	
	08報償費	委員謝礼、講師謝礼	275	委員謝礼、講師謝礼	222	委員謝礼、講師謝礼	926
	09旅費	費用弁償費	286	費用弁償費	477	費用弁償費	797
	11需用費	消耗品、ポスター印刷等	1,056	消耗品、ポスター印刷等	820	消耗品、ポスター印刷等	1,914
	12役務費	所蔵資料保管業務等	215	所蔵資料保管業務等	350	所蔵資料保管業務等	508
	13委託料	コンサル委託等	3,669	展示制作委託等	962	寄託資料データ化委託等	6,798
	14使用料	会場使用料等	4	会場使用料等	6	会場使用料等	348
	18備品購入	自筆原稿、書棚等	1,272	自筆原稿	300	自筆原稿	990
19負担金					全国文学館協議会年会費	20	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	記念講演会等の参加人数	700	90	89	90	90	
	吉村昭企画展来場者人数	2,159	1,738	1,782			22年度まで実施
	吉村昭パネル展				1,000	1,000	23年度から図書館及びふるさと文化館等を活用したパネル展を展開

（問題点）文学館の設置に向けては、区民に対する吉村文学のさらなる周知のみならず、広範な文学、あるいは芸術文化全般の普及啓発に努めることにより、文学館運営のための土壌を豊かにしていく必要がある。そこで、図書館・文化館等における日常的な作家紹介、区報やHP等を通じた情報提供などを行うことにより、区民意識の醸成を図る必要がある。また、複合施設設置計画の進捗状況も併せて、適切な情報提供を行い、施設開設後の利用者確保に努める必要がある。

他区の実況  
（実施 12 区 未実施 10 区）  
文学館設置区  
新宿、渋谷、世田谷、台東、大田、中央、文京、北、目黒、杉並、練馬

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
複合施設の基本計画及び基本設計の進捗を踏まえ、文学館において「展開されるべき事業」と「必要な施設内容」という視点から実施計画を検討する。	文学館独自の事業と他施設との連携事業の方向性を明確にするとともに、設置に向けた準備を円滑に行える。
文学館の開設に向け、資料整理及びさらなるデータベース化作業のための作業スペースを確保し、関連資料の研究を進める。	さらに具体的な文学館の展示内容を検討することができる。
図書館・文化館等での作品紹介やHPでの紹介など、通年行う啓発事業を充実させる。	区民に向けた普及啓発をさらに進めることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	広く区民に対して、吉村昭という作家とその作品の紹介を継続して行うことにより、文学館設置に向けた区民意識の醸成を図る必要がある。また、複合施設全体の進捗状況と併せた具体的な文学館展示内容の検討を行うため、保管する資料の研究を早急に進める必要がある。

（状況）  
H18一定 吉村昭氏の記念文学館あるいは図書館併設の記念文庫をつくってはどうか  
H18三定 記念館の設置を要望する  
H22予特 複合施設の計画を凍結すべき



# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤 泰祥
		担当者名	市山 正昭	内線	3351
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費(01-01-01) 清里高原ロッジ・少年自然の家(施設改修)(01-01-02)				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	58年度	根拠	荒川区立清里高原ロッジ条例、荒川区立清里高原少年自然の家条例、両条例施行規則
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	[ロッジ] 区民に、山村の中での生活を体験するとともに山村地域住民との交流を深める場を提供することにより、区民の健康と福祉の増進を図る。 [自然の家] 豊かな自然環境の中での集団生活を通じて、明日を担う少年の豊かな情操と自律、協同の精神を養い、創意と活力にあふれる人間形成を図る。				
対象者等	1 荒川区内の青少年団体その他の社会教育関係団体（文化・スポーツ・自然観察・野外活動） 2 区立小・中学校（移動教室・夏期学園等の教育活動） 3 区内在住者、区内在勤者及びその家族等（文化・スポーツ・自然観察・野外活動）				
内容	【開設】昭和58年4月15日 【所在地】山梨県北杜市高根町清里3545-5 【定員】ロッジ35名、少年自然の家200名 【宿泊室】ロッジ 12畳5室、9畳(ﾊﾞｯﾄ)1室、研修室洋間55㎡(34畳)、談話室、食堂、浴室 少年自然の家 24.5畳10室、研修室24.5畳1室、リーダー室10畳2室・8畳2室、食堂、浴室、体育室 【土地面積】32,322㎡ 【構造】鉄筋コンクリート造2階建 【建物面積】延3,999.96㎡(ロッジ809.99㎡、自然の家3,189.97㎡) 【面積比】ロッジ：自然の家＝2：8 【休業日】 1月1日から4月28日（当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直前の金曜日）まで。 11月5日(当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直後の月曜日)から12月31日まで。 （平成22年度の開設は、平成22年4月29日から平成22年11月4日まで） （平成23年度の開設は、平成23年4月29日から平成23年11月6日まで）				
経過	1 建設費 ロッジ 207,452千円 自然の家 603,099千円 2 管理運営 昭和58年4月1日～ 高根町と管理委託に関する協定（10年間×2） 平成14年4月1日～ (株)ニッコクトラストに業務委託（平成18年4月1日～ 指定管理者業務実施） 3 平成16年11月1日高根町を含む7市町村が合併し、北杜市となる。				
必要性	荒川区内では体験することが難しい自然とのふれあいや、小中学校の校外活動を行う場としての役割は大きい。				
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 指定管理者：株式会社 ニッコクトラスト				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	66,608	45,700	51,792	50,731	77,816	75,546	64,335	
決算額（23年度は見込み）	62,715	42,885	50,792	50,304	77,499	66,290	64,335	
人件費等	5,291	2,989	2,989	2,541	2,199	2,616		
減価償却費						872		
【事務分担当】（%）	265	35	35	30	27	30		
合計（+ +）	68,006	45,874	53,781	52,845	79,698	69,778	64,335	
国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
その他（特定財源）	21,197	0	0	0	16,000	11,975	10,000	
一般財源	46,809	45,874	53,781	52,845	63,698	57,803	54,335	
実績の推移	事項名							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
一般利用者（人）	2,759	2,259	2,288	2,260	2,044	2,065	2,300	
学校利用者（人）	6,981	7,587	7,856	7,704	7,674	8,471	7,700	

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
		職員旅費	管理運営指導等旅費	207	管理運営指導等旅費	218	管理運営指導等旅費
一般需用	家屋等修繕費	1,300	消耗品・修繕	5,244			
役務費			テレビ処分費	23			
委託料	指定管理料	50,560	指定管理料	51,040	指定管理料	50,287	
使用料	土地賃借料	2,647	土地賃借料	2,647	土地賃借料	2,648	
工事請負	工事請負費	22,785	工事請負費	6,867	工事請負費	10,997	
備品購入			テレビ購入	251			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	利用人数（人）	9,964	9,718	10,536	10,000	10,500	延べ利用者数
	宿泊部屋稼働率（％）	36.7	38.1	34.7	40.0	45.0	利用部屋数 / 稼働部屋数
	利用者1人当たりの維持管理コスト（円）	4,396	5,486	5,106	5,309	5,300	決算額 / 利用者数（算出決算額は工事等臨時経費を除いた額）

（問題点・課題 指標分析）	<p>開設から28年が経過しており、設備を含めた計画的修繕が必要である。 少年自然の家は学校の利用が中心となり、安定的な運営を図れるが、ロッジの利用率の向上が課題である。 重油・食材の高騰によって管理・運営経費が増大する等、物価の影響を受けやすい。</p>
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討									
	平成24年度以降に取り組み具体的な改善内容								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="text-align: center;">改善により期待する効果</th> </tr> <tr> <td>点検等により修繕必要箇所の抽出を行い、計画的に修繕及び工事が行えるよう検討する。</td> <td>施設の維持及び利用者の快適性向上等の解消を図ることができる。</td> </tr> <tr> <td>駅等へのポスターの掲出や区報等でのPRの強化、近隣観光施設との連携により、新たな利用者の掘り起こしを行う。</td> <td>利用人数の増大が期待できる。</td> </tr> <tr> <td>利用者のニーズの把握と効果的な運営のために、指定管理者との連携の強化を図る。</td> <td>利用者のニーズに沿った効率的な運営により、指定管理料の適切な支出を図ることができる。</td> </tr> </table>		改善により期待する効果	点検等により修繕必要箇所の抽出を行い、計画的に修繕及び工事が行えるよう検討する。	施設の維持及び利用者の快適性向上等の解消を図ることができる。	駅等へのポスターの掲出や区報等でのPRの強化、近隣観光施設との連携により、新たな利用者の掘り起こしを行う。	利用人数の増大が期待できる。	利用者のニーズの把握と効果的な運営のために、指定管理者との連携の強化を図る。	利用者のニーズに沿った効率的な運営により、指定管理料の適切な支出を図ることができる。
	改善により期待する効果								
点検等により修繕必要箇所の抽出を行い、計画的に修繕及び工事が行えるよう検討する。	施設の維持及び利用者の快適性向上等の解消を図ることができる。								
駅等へのポスターの掲出や区報等でのPRの強化、近隣観光施設との連携により、新たな利用者の掘り起こしを行う。	利用人数の増大が期待できる。								
利用者のニーズの把握と効果的な運営のために、指定管理者との連携の強化を図る。	利用者のニーズに沿った効率的な運営により、指定管理料の適切な支出を図ることができる。								

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	区民の健康増進と福祉の増進、児童生徒の体験活動の場を提供するため、必要である。

（議会議 要旨）	
-------------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

<b>事務事業名</b>	町屋文化センター管理運営費	<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	佐藤泰祥
		<b>担当者名</b>	服部好恵	<b>内線</b>	3352
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）</b>	町屋文化センター管理運営費（01-01-01）				
<b>事務事業の種類</b>	新規事業（22年度 21年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
<b>開始年度</b>	昭和 平成	63 年度	<b>根拠法令等</b>	荒川区立町屋文化センター条例、同施行規則	
<b>終期設定</b>	有 無	年度			
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>	計画 非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	子育て教育都市[ ]			
	<b>政策</b>	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援[04-12]			
<b>目的</b>	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習、文化の欲求を満足させる機会をつくとともに、学習、文化活動の推進を図る。				
<b>対象者等</b>	荒川区内在住・在勤・在学者				
<b>内容</b>	1 開設 昭和63年11月1日 2 所在地 荒川区町屋7-20-1 3 土地面積 4,137.28㎡（イーストヒル町屋）の一部 4 延床面積 2,400㎡ 5 構造 鉄筋コンクリート造3階建 6 施設面積 多目的ホール188.80㎡（椅子席154名収容）、音楽練習室60.78㎡、ふれあい広場480.41㎡ 第1会議室64.08㎡（36名収容）、第2会議室65.61㎡（33名収容） 第3会議室68.57㎡（45名収容）、第4会議室 74.47㎡（45名収容）				
<b>経過</b>	昭和63年11月 施設管理・運營業務を（財）荒川区地域振興公社（ACC）に委託 平成18年4月～21年3月 指定管理者による運営 平成21年4月～24年3月 指定管理者による運営（更新） 平成23年3月11日の東日本大震災の影響による電力不足対策として3月12日～5月15日の間、夜間利用を休止した。				
<b>必要性</b>	文化総合講座の開講、各種教室、施設の貸出し等、区民の生涯学習のニーズに合った施設であるため必要性は高い。				
<b>実施方法</b>	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 指定管理者：財団法人荒川区地域振興公社				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額	55,541	43,634	40,213	54,489	37,986	35,933	35,533	
決算額（23年度は見込み）	51,358	41,185	40,202	52,104	36,695	35,933	35,533	
人件費等	2,586	2,562	4,697	2,710	1,628	2,180		
減価償却費						726		
【事務分担当】（%）	30	30	55	32	20	25		
合計（+ +）	53,944	43,747	44,899	54,814	38,323	38,839	35,533	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	53,944	43,747	44,899	54,814	38,323	38,839	35,533	
<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>	<b>17年度</b>	<b>18年度</b>	<b>19年度</b>	<b>20年度</b>	<b>21年度</b>	<b>22年度</b>	<b>23年度</b>
	多目的ホール（利用件数）	1,149	1,185	1,192	1,143	1,161	1,125	1,200
	音楽練習室（利用件数）	1,090	1,135	1,137	1,139	1,160	1,187	1,200
	第1～4会議室（利用件数）	3,422	3,390	3,509	3,670	3,744	3,536	4,000
	ふれあい広場（利用件数）	353	367	379	340	376	326	400

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
負担金補助及び交付金	委託料	指定管理料	23,429	指定管理料	23,429	指定管理料	23,429
		管理組合管理費	12,504	管理組合管理費	12,504	管理組合管理費	12,504
		特別修繕費		特別修繕費		特別修繕費	
	工事請負	工事請負費	763	工事請負費	0	工事請負費	8,010

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	施設稼働率（％）	74.5	76	69	80	80	利用件数/利用可能数
	利用者数（人）	170,748	164,220	179,543	180,000	200,000	延利用者数
	カルチャー講座受講者数（人）	6,534	6,290	5,585	6,500	7,000	延受講者数

（問題点・課題 指標分析）	<p>開設から23年経過しており、施設の老朽化や設備・備品の劣化・不具合が生じているため、空調設備の改修や、会議室の椅子の買い替え、多目的ホールの音響設備の更新等を行ってきた。平成23年度は電気設備の改修を行う。今後は、トイレの改修、備品の修繕等についても計画的に行う必要がある。</p>
他区の実況	（実施 22 区                      未実施                      区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	トイレや備品等の修繕を行う。	快適な利用環境により、利用率の向上が期待できる。
	指定管理業務に加え、指定管理者による自主事業を促す。	多様化する区民ニーズに応えることにより、利用者数、施設稼働率の向上が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	生涯学習の場を提供する社会教育施設として運営するために必要である。

況議 （要 旨 問 状）	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	生涯学習センター管理運営費	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	高橋温子	内線	3351
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	生涯学習センター管理運営費(01-01-01)				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和 平成	9 年度	根拠	荒川区立生涯学習センター条例、	
終期設定	有 無	年度	法令等	同条例施行規則	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	区民に学習の場を提供するとともに、区民の学習要望に応える講座等の実施、生涯学習に関する相談、情報収集・提供等を行い、生涯学習の推進を図る。				
対象者等	区民一般 各種講座などは、18歳以上の在住・在勤・在学者を対象とする。				
内容	<p>【開設】H9.7.1</p> <p>【所在地】荒川区荒川3-49-1(教育センターと併設)</p> <p>【土地面積】6,579.78㎡</p> <p>【延床面積】2,970.35㎡(4530.36㎡のうち)</p> <p>【構造】鉄筋コンクリート4階建(うち1・3・4階部分)</p> <p>【施設内容】小会議室4室(64㎡、30人程度)、大会議室(128㎡、80人程度)、音楽室(128㎡、40人程度)、多目的室(128㎡、60人程度)、学習室(64㎡、30人)、情報提供コーナー(64㎡)、体育館(700㎡)、多目的広場(3,486㎡)</p> <p>【利用時間】午前9時～午後10時</p> <p>【休館日】年末年始(12月29日～1月3日)・定期清掃等時の臨時休館</p> <p>【主な講座】区民カレッジ、専修学校の公開講座、IT講習会等</p>				
経過	<p>【平成9年度】7月開設</p> <p>【平成16年度】施設運営等業務を(株)読売・日本テレビ文化センターに委託</p> <p>【平成18～20年度】(株)読売・日本テレビ文化センターが指定管理者として管理運営を行う</p> <p>【平成21～23年度】(株)読売・日本テレビ文化センターが指定管理者更新</p>				
必要性	生涯学習の場として、生涯学習センター施設の使用件数が年々増加している。「区民カレッジ」についても定員を超える応募があり、区民の生涯学習に対する意欲が感じられる。生涯学習推進計画に基づき、生涯学習センターの各事業を充実し、生涯学習の一層の普及・啓発を行っていく必要性は高い。				
実施方法	( 3委託 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ) 指定管理者：株式会社読売・日本テレビ文化センター				

予 算 ・ 決 算 額 等 の 推 移	(単位：千円)							
		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
予算額		65,954	66,428	71,576	80,974	83,010	88,896	76,008
決算額(23年度は見込み)		64,343	56,142	68,544	79,784	74,414	81,613	76,008
人件費等		4,310	1,366	2,989	3,754	3,868	4,465	
減価償却費							2,179	
【事務分担量】(%)		50	16	35	55	65	75	
合計(+ +)		68,653	57,508	71,533	83,538	78,282	88,257	76,008
国(特定財源)		0	0	0	0	0	0	0
都(特定財源)		0	0	0	0	0	0	0
その他(特定財源)		2,084	91	122	10,090	15,204	20,204	5,225
一般財源		66,569	57,417	71,411	73,448	63,078	68,053	70,783
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	施設稼働(8施設)件数(件)	7,011	7,044	7,142	6,676	6,962	6,967	7,000
	区民カレッジ(講演・講座数、回数)	8,42	11,45	9,42	11,47	10,51	9,50	10,64
	IT講習会(講座数)	54	54	50	54	54	51	44
	IT自習室利用数(人)	3,445	2,071	1,342	929	750	1,073	1,080

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	近隣協力員謝礼		48	近隣協力員謝礼	48	近隣協力員謝礼
役務費						デジタル印刷機廃棄	14
一般需用				パドミントン支柱	48	家屋等修繕	1,878
委託料	指定管理料	55,167		指定管理料	55,594	指定管理料	55,216
使用料	公有地賃借料	10,189		公有地賃借料	10,699	公有地賃借料	10,860
使用料	PCリース	1,040		PCリース	1,040	PCリース	1,685
工事請負	改修工事	7,970		改修工事	14,023	改修工事	6,025
備品購入				バレーボール支柱	163	デジタル印刷機購入	282

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	施設稼働率(%)	61	61	63	65	68	利用件数 / 利用可能数 (多目的広場、PC室を除く)
	利用者数(人)	105,380	111,696	91,561	100,000	120,000	延べ利用者数 (多目的広場、PC室を除く)
	区民カレッジ受講者数(人)	2,632	3,457	2,648	3,000	3,500	延べ受講者数

(問題点・課題分析)	<p>施設稼働率の向上のために、区民ニーズの把握に努め、よりよい区民サービスの提供について検討する。                  区民カレッジ等の無断欠席や中途不参加者の減少のために、募集方法の変更や適正な受益者負担について、検討する。                  IT講習会については、より広いニーズに応えることを検討する。また、ITボランティア養成講座修了者の活用について検討する。</p>
他区の実況	(実施 22 区 未実施 区)

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
アンケート調査等を行う。	区民ニーズを反映した施設運営を行うことにより、利用率の向上が図れる。
区民カレッジ等の講座について、必要な受益者負担を求める。	真に希望する区民のみが参加することにより、区民カレッジ等の参加率の向上が図れる。
パソコンの取替に伴いより新しいOSに対応した基本講座を展開するとともに、ブログ作成等、より広いニーズに応える講座を開催する。	継続的な受講により、受講率の向上を図ることができる。様々なニーズに対応するため、より多くの補助員が必要となり、ITボランティアの活用を図ることができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	生涯学習の場を提供する社会教育施設として運営するため必要である。

況議(要質問状)	H22 予特 子どもたちが群れて外遊びをする場所・機会の提供に、多目的広場を活用してはどうか
----------	--

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	荒川コミュニティカレッジ	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤 泰祥
		担当者名	内田 暁生	内線	1829
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	荒川コミュニティカレッジ管理運営費（01-14-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	22 年度	根拠法令等	荒川コミュニティカレッジ実施要綱、荒川区生涯学習推進計画、（仮称）あらかわ地域大学構想	
終期設定	有 無	年度			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	荒川コミュニティカレッジは、区民の地域への関心を深め、地域活動の担い手となる人材を育成することにより、地域社会の活性化を図ることを目的とする。				
対象者等	荒川区在住・在学・在勤の18歳以上の方				
内容	<p>会場 サンパール荒川6階荒川コミュニティカレッジ研修室ほか 履修期間 2年間</p> <p>(1) 1年次基礎課程（各コース定員30名）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかわ入門コース（昼間）...これまで地域との関わりが少なかった人を対象としたコース（30名入学）</li> <li>・地域活動パワーアップコースA（昼間） ...既に地域活動をしていて、スキルアップしたい人を対象としたコース（26名入学）</li> <li>・地域活動パワーアップコースB（夜間・土曜日） ...平日昼の参加が困難で、地域活動を始めたいと考えている人、活動を充実するためにスキルアップしたい人を対象としたコース（29名入学）</li> </ul> <p>(2) 2年次（平成23年10月より実施） 3つの学科から受講生の希望により選択して受講する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり学科A（昼間） B（夜間・土曜日）...区民によるまちづくりのすすめ方を学ぶ学科</li> <li>・健康・福祉学科（昼間）...高齢者・障がい者の支援や健康づくりを学ぶ学科</li> <li>・共育学科（昼間）...地域で共に子どもたちを育てていくための活動や、子育て支援について学ぶ学科</li> </ul> <p>(3) その他 選択科目（選択講座、連携講座、公開講座）、入学式、修了式（平成24年9月）、学園祭等を行う</p>				
経過	荒川区生涯学習推進計画策定(20.3) 重点目標の新たな取り組みとして提示 （仮称）あらかわ地域大学構想懇談会の設置（20.12） （仮称）あらかわ地域大学構想策定（22.3） 名称（荒川コミュニティカレッジ）の決定（22.5） 荒川コミュニティカレッジ開校・1期生入学（22.10）				
必要性	区と区民とが協働し、「幸福実感都市」を実現するための基盤づくりとして、地域社会を担う人材を育成する場が必要。				
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
予算額				4,265	503	35,745	12,808	
決算額（23年度は見込み）				3,404	123	27,680	12,808	
人件費等				2,118	4,724	23,022		
減価償却費						11,620		
【事務分担当】（%）				25	65	400		
合計（+ +）	0	0	0	5,522	4,847	62,322	12,808	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）						480	1,405	
一般財源	0	0	0	5,522	4,847	61,842	11,403	
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	受講者数（人）						85	170
	出席率（%）						90	90

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			講師謝礼等	562	講師謝礼等	4,282
	一般需用費	構想印刷等	123	消耗品、印刷製本	3,361	消耗品、印刷、修繕	2,425
	役務費			電話料等	241	電話料等	286
	委託料			清掃委託、光熱水費等	3,718	清掃委託、光熱水費等	7,141
	使用料			会場使用料等	56	会場使用料等	799
	工事請負費			研修室等改修	9,839		
	備品購入費			初度調弁	3,790	備品購入	300

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
	受講者数			85	170	180	1年生・2年生合計人数
	出席率（％）			90	90	90	受講者の出席率
	講座満足度平均（5段階）			4.3	4.5	4.5	講座ごとのアンケート満足度平均(5段階)

（問題点・課題）  
 新たな取り組みである荒川コミュニティカレッジの目的・役割をより多くの区民に知ってもらい、継続的に受講生を確保すること。  
 受講者が2年間で、自ら主体的に地域活動等に取り組む仕組みをつくっていく必要がある。

（他区の実施状況）  
 （実施 18 区 未実施 4 区）  
 それぞれの区で、目的や実施方法等が異なっており、全く同じ事業はない。  
 区民の力を活用することを目的とした内容が含まれている区は以下の通り。また、所管は教育委員会以外が担当している場合が多い。  
 中央区...中央区民カレッジ（区民部文化・生涯学習課）、墨田区...さくらカレッジ（NPO法人すみだ学習ガーデン）、杉並区...すぎなみ地域大学（区民生活部すぎなみ地域大学担当）、すぎなみ大人塾（教育委員会 社会教育センター）、江戸川区...江戸川総合人生大学（江戸川総合人生大学事務局）、品川区...区民大学（地域振興事業部文化スポーツ振興課）、練馬区...地域福祉パワーアップカレッジねりま（福祉部経営課）、目黒区...めぐろシティカレッジ（めぐろシティカレッジ振興会）、足立区...あだち区民大学塾（NPO法人あだち学習支援ボランティア、足立区生涯学習振興公社）、葛飾区...かつしか区民大学（教育委員会生涯学習課）、板橋区...板橋グリーンカレッジ（健康生きがい部生きがい推進課）、豊島区...としまコミュニティ大学（文化商工部学習・スポーツ課）、北区...NPOボランティアカレッジ（NPO・ボランティアぷらざ）、港区...チャレンジコミュニティ大学（高輪地区総合支所暮らし応援課）、大田区...大田区民大学（教育委員会社会教育課）、千代田区...千代田区内大学（区民生活部コミュニティ担当課）、世田谷区...世田谷市民大学（世田谷市民大学事務局）、中野区...中野区区民大学、文京区...文京アカデミア（文京アカデミー）

問題点・課題の改善策検討	
平成24年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
公開講座の実施やHPの充実、コミュニティカレッジの情報紙作成等を行い、区民へ周知を行う。	地域活動の必要性、楽しさを伝えることで、地域社会を担う人材が増加する。
関係課・関係団体等と調整し、協力体制を整える。	卒業後、受講生がすぐに地域活動を行うことができる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
重点的に推進	重点的に推進	区民が学びの成果を活かして地域活動に参加できるよう、主体的に知識や技術を学ぶ場として必要である。

（議会要旨）  
 21 2定 「地域における人材育成について」



# 事務事業分析シート（平成23年度）

No1

事務事業名	生涯学習・スポーツポータルサイト	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	佐藤泰祥
		担当者名	松本春佳	内線	3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（23年度）	社会教育課事務費（01-02-01）				
事務事業の種類	新規事業（23年度 22年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和 平成	21 年度	根拠	無し	
終期設定	有 無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市[ ]			
	政策	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成[04]			
	施策	生涯学習活動の支援[04-12]			
目的	生涯学習・スポーツに関する情報を掲載した一体的なポータルサイトを運営することにより、より幅広い層の区民の生涯学習に対する意識を高め、取り組みを促進する。				
対象者等	区民全般				
内容	<p>生涯学習・スポーツに関する情報をデータベース化して提供するためのポータルサイトを、平成22年4月に開設し、より多くの区民が閲覧し、活用してもらえるよう運営していく。</p> <p>主なコンテンツ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 各種データベース <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習（スポーツを含む。以下同じ）に関する計画、生涯学習施策</li> <li>・生涯学習支援・助成制度（社会教育サポーター、補助金、後援名義申請等）</li> <li>・社会教育関係団体、スポーツ団体、文化団体等の紹介（サークル・団体名簿）</li> <li>・文化財保護、生涯学習施設、スポーツ施設の提供</li> </ul> </li> <li>2 講座、イベント、スポーツ大会等の最新情報の提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・区や指定管理者主催の講座等の開催予定や募集方法などの周知</li> <li>・申し込み状況（空き状況）の情報提供</li> </ul> </li> <li>3 動画配信等によるeラーニングのコンテンツの検討</li> </ol>				
経過	<p>平成20年度 検討開始</p> <p>平成21年度 業者選定及び契約、システム構築</p> <p>平成22年度4月1日 生涯学習・スポーツポータルサイト「あらかわまなびプラザ（あらプラ）」開設</p>				
必要性	<p>新聞をとっている世帯が減少し、携帯でも気軽にサイトを閲覧できるようになった現在においては、生涯学習が対象とする幅広い年齢に情報を提供するために、ポータルサイトで情報を提供することは重要である。また、生涯学習（講座やイベント）情報を集約して提供することによって、利用者の時間短縮につながり、参加者の増加にもつながる。</p> <p>荒川区生涯学習推進計画において「ITを利用した情報の提供・学習支援」が重点目標になっている。</p>				
実施方法	<p>（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>委託部分：システム構築及び改築、保守・管理（広報課において契約）</p> <p>直営部分：ポータルサイト運営（掲載内容決定及びコンテンツ内容の修正など）</p>				

		（単位：千円）						
予算・決算額等の推移		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
		予算額					9,030	0
	決算額（23年度は見込み）					5,042	0	0
	人件費等					2,444	3,663	
	減価償却費						1,220	
	【事務分担量】（%）					44	42	
	合計（+ +）	0	0	0	0	7,486	3,663	0
	国（特定財源）							
	都（特定財源）							
	その他（特定財源）							
	一般財源	0	0	0	0	7,486	3,663	0
実績の推移	事項名	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
	アクセス数（月平均）						2,000	1,500

# 事務事業分析シート（平成23年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成21年度（決算）		平成22年度（決算）		平成23年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料	生涯学習ホームページ開発委託	9,030	消耗品等は社会教育課事務費			

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		20年度	21年度	22年度	23年度	目標値 (25年度)	
標	アクセス数（月平均）			2,000	1,500	4,000	トップページのアクセス数

（問題点・課題）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲載内容の充実</li> <li>・掲載方法（事務手続きやシステム承認の流れなど）のマニュアル化及び徹底 現在は、同システムである広報課のマニュアルを準用しているが、生涯学習・スポーツポータルサイト独自の部分についてのマニュアルを作成し、作業の明確化を図る</li> </ul>
他区の実況	<p style="text-align: center;">（実施 5 区                      未実施 17 区）</p> <p>中野区（まなVIVAネット）、足立区（あだち学び情報館まなポー）、港区（まなび なび・みなと） 北区（生涯学習情報システム）、練馬区（ねりまの生涯学習なび） 北区、練馬区は区公式ホームページ上に特別にコーナーを設ける形式で作成</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成23年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
掲載内容の充実 （区報に掲載したもの、チラシにより周知を行っているものについては全て掲載する）	容易に区報、チラシを入手することができなかった区民が、生涯学習・スポーツ情報を手に入れやすくなることによって、より幅広い層の区民への取り組みを促進させる。
掲載内容の充実 （文章による情報だけでなく、写真や動画などを掲載する）	より具体的に講座・イベントを紹介することによって、講座等を選択しやすくなるため、参加者の参加・学習意欲が高まる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	引き続き生涯学習・スポーツに関する情報提供の充実を図る。

議会議決要旨	
--------	--